

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	電気電子工学科	夜・通信		6	18	24	13	-
	電子機械工学科	夜・通信		6	20	26	13	-
	機械工学科	夜・通信		6	8	14	13	-
	基礎理工学科	夜・通信		6	8	14	13	-
	環境科学科	夜・通信		6	16	22	13	-
	建築学科	夜・通信		8	15	23	13	-
情報通信工学部	情報工学科	夜・通信		6	11	17	13	-
	通信工学科	夜・通信		6	10	16	13	-
医療健康科学部	医療科学科	夜・通信		0	15	15	13	-
	理学療法学科	夜・通信		4	10	14	13	-
	健康スポーツ科学科	夜・通信		2	13	15	13	-
総合情報学部	デジタルゲーム学科	夜・通信		2	12	14	13	-
	ゲーム&メディア学科	夜・通信		2	12	14	13	-
	情報学科	夜・通信		2	12	14	13	-
(備考) 工学部の以下の学科の1年次から3年次は新課程、4年次は旧課程。 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科								

工学部建築学科は 2018 年度の開設。

情報通信工学部の 1 年次から 3 年次は新課程、4 年次は旧課程。

医療健康科学部 2020 年 4 月 医療福祉工学部より名称変更。
医療健康科学部の 1 年次から 3 年次は新課程、4 年次は旧課程。
医療科学科 2020 年 4 月 医療福祉工学科より名称変更。

総合情報学部情報学科の 1 年次から 3 年次は新課程、4 年次は旧課程。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて公表：

<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/work-experience/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人のホームページ(以下URL)に掲載 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/member/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	元大学学長 元企業代表取締役執行役員社長 理事長	2022/4/1 ～ 2024/3/7	法人を代表し、 その業務を総理
非常勤	同窓会組織会長 企業代表	2021/3/8 ～ 2024/3/7	寄付募金 (高校同窓会)担当
非常勤	元大学学長	2021/3/8 ～ 2024/3/7	大学教育・研究 (情報教育)担当
非常勤	同窓会組織副会長	2021/3/8 ～ 2024/3/7	寄付募金 (大学同窓会)担当
非常勤	代表取締役会長CEO	2021/3/8 ～ 2024/3/7	地域連携担当
非常勤	特定非営利活動法人 NPO法人理事長	2021/3/8 ～ 2024/3/7	マーケティング担当
非常勤	元大学副学長	2021/3/8 ～ 2024/3/7	大学教育・研究担当
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
○授業計画書の作成過程 各教員の作成後, 各学科の主任, 教務委員及び学部長等による内容の点検を経ている。	
○授業計画書の作成・公表時期 1 月から 2 月頃にシラバスが作成され, 点検を経て, 履修登録開始の約 1 週間前(3 月下旬)までに下記 URL で公表している。	
【全学部共通】	
授業計画書の公表方法	https://myportal.osakac.ac.jp/m/websyllabus/search.xhtml

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスにおいて「評価方法と評価観点」の項目を置き、「定期試験またはレポート試験」、「小テスト、小論文」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「レポート、宿題」、「授業での姿勢(ノート、質疑など)」、「作品、パフォーマンス(実技、実演)」といった評価方法を示し、それぞれについて、「知識・理解力」、「応用力」、「コミュニケーション力」、「態度・志向性」、「創造力」といった評価観点及び、評価割合を示している。</p> <p>このように、評価方法と評価観点ごとに評価の割合をあらかじめ示し、学修成果をはかるため試験等により厳格かつ適正な単位授与を実施している。</p> <p>【全学部共通】</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○客観的な指標(GPA)の設定の算出方法</p> <p>成績表示に用いる Grade Point は、次のとおり。</p> <p>評点:Grade Point</p> <p>100～90点: 4</p> <p>89～80点: 3</p> <p>79～70点: 2</p> <p>69～60点: 1</p> <p>59点以下、未受験等による評価不能: 0</p> <p>科目の単位数 × その科目で得た Grade Point</p> $\text{GPA(小数点第4位を四捨五入)} = \frac{\Sigma(\text{科目ごとに取得した Grade Point の総和})}{\Sigma(\text{履修登録単位数})}$ <p>合格・不合格をもって表す科目は算出の対象から除外。 最低履修登録単位数に満たない場合は順位付けの対象外。</p> <p>【全学部共通】</p> <p>○客観的な指標(GPA)の適切な実施状況</p> <p>上記の算出方法に基づき、前期・後期の各値、累積の値を GPA 順位とともに学業成績表に記載し、学生に配付している。</p> <p>【全学部共通】</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.osakac.ac.jp/campuslife/class-related/class/testing-results.php</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○卒業の認定に関する方針の具体的な内容 本学では以下の「全学の統一的学位授与方針」をはじめ、学部・学科単位でディプロマ・ポリシーを定め、公表している。 ディプロマ・ポリシー (全学の統一的学位授与方針) 大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのため、実践的な実学の技能として、手と頭と心に次の3つの能力を修得していることを全学共通の要件としています。 (1)【手】手が動かせること:学修した知識やツールを組み合わせ活用し、与えられた課題に着手できる力 (2)【頭】絵が描けること:考えていることやイメージしていることを図解などによってビジュアルに表現できる力 (3)【心】コミュニケーションができること:人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力 さらに、それらを総合的に応用して、新たな課題を発掘していく創造力や、チームでの協働作業で自分の役割を果たしながら着実に課題を解決していく能力を培い、社会人としての責任感や倫理観を身に付けた者に対して「学士(所定分野)」の学位を授与します。</p> <p>○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 本学では上記のとおり全学・学部・学科単位で定められたディプロマ・ポリシー及び学生の修得単位数をもとに、学部教授会において卒業要件※の充足状況を確認し、卒業の可否を審議する。なお、開講科目それぞれがディプロマ・ポリシーとどのように関係するかは、科目ごとのシラバスの目的欄に記載されている。 【全学部共通】</p> <p>※本学の卒業要件は次の通り。 4年以上在学し、必修科目(卒業研究・卒業制作を含む)・選択必修科目・選択科目の単位数について、学科ごとに指定された単位数以上修得し、128単位を習得していること 【全学部共通】</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy_2022.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
収支計算書又は損益計算書	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
財産目録	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
事業報告書	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
監事による監査報告(書)	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部・情報通信工学部・医療健康科学部・総合情報学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/img/purpose.pdf)
(概要) 工学部 電気電子工学科 電気電子工学科は、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得するよう育成することを目的とする。 電子機械工学科 電子機械工学科は、ロボットや IoT, 自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報コンピューティングを教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアの育成を目的とする。 機械工学科 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。 基礎理工学科 基礎理工学科は、広範な科学知識, 理数系的な思考力, 高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する、技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)の育成を目的とする。 環境科学科 環境科学科は、地球環境保全に寄与する機能性材料を作り出す技術や機械・電気・情報技術の基礎および応用力の総合的な教授による「住環境」を守る技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎および応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な人材の育成を目的とする。 建築学科 建築学科は、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を目指した教育研究を通じて、「人に対して安全かつ快適な空間であることを考慮しつつ、環境に対して自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を念頭に置いて、計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養成する」ことを目的とする。 情報通信工学部 情報工学科 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的な人材の育成を目的とする。

通信工学科

通信工学科は、情報通信社会を支える 3 要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

医療健康科学部

医療科学科

医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学および工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した 臨床工学技士の育成を目的とする。

理学療法学科

理学療法学科は、医療や保健に携わる理学療法士の育成を目的とする。責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成する。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的とする。

総合情報学部

デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会に継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

情報学科

情報学科は、進化し続ける ICT 技術や IoT 技術の基盤となる知識の習得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の 3 項目を教育目標とし、コンピュータスペシャリストとして社会で活躍できる 人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy_2022.pdf

)

(概要)

(全学の統一的学位授与方針)

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのため、実践的な実学の技能として、手と頭と心に次の 3 つの能力を修得していることを全学共通の要件としています。

(1)【手】手が動かせること：学修した知識やツールを組み合わせ活用し、与えられた課題に着手できる力

(2)【頭】絵が描けること:考えていることやイメージしていることを図解などによってビジュアルに表現できる力

(3)【心】コミュニケーションができること:人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力

さらに、それらを総合的に応用して、新たな課題を発掘していく創造力や、チームでの協働作業で自分の役割を果たしながら着実に課題を解決していく能力を培い、社会人としての責任感や倫理観を身に付けた者に対して「学士(所定分野)」の学位を授与します。

◎工学部

(工学部の統一的学位授与方針)

工学部では、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させ、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目指しています。そのために、以下の科目群をバランス良く取得して所定の単位を修め、それぞれの学修課題に相応しい、以下の能力を培っている者に対して「学士(工学)」の学位を授与します。

(1) 総合科目: 豊かな人格形成の基盤となり、社会との関わりを考える力

(2) 基礎専門科目、学科専門科目: 工学の基礎知識をしっかりと学び、最先端の技術革新にも対応できる応用力

(3) 実験・演習等の実践科目: 実際に「手」を動かして与えられた課題に取り組める能力

(4) プレゼミ、卒業研究: 自ら目標を定め、それを達成する能力やコミュニケーションができる能力

○電気電子工学科

電気電子工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・人と社会を理解し、自然に関する科学的知識と電気電子工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている【DP-E-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-E-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める【DP-E-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる【DP-E-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-E-3-2】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる【DP-E-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-E-4-1】

○電子機械工学科

電子機械工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・機械、電気・電子、計測・制御そして情報・コンピュータの分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている

【DP-H-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-H-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める【DP-H-2-2】

(3) 態度・志向性

- ・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる【DP-H-3-1】
 - ・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-H-3-2】
 - ・最新科学技術の獲得とその応用のために研鑽を続けられる【DP-H-3-3】
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
- ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-H-4-1】

○機械工学科

機械工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

- ・機械工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-J-1-1】

(2) 汎用的技能

- ・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。【DP-J-2-1】
- ・科学的な思考力で判断決断し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。【DP-J-2-2】

(3) 態度・志向性

- ・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-J-3-1】
- ・個性を發揮しながらも他者と協調して、自らの役割を、責任をもって果たすことができる。【DP-J-3-2】
- ・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-J-3-3】
- ・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる。【DP-J-3-4】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・モノづくりにおける実際の諸問題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-J-4-1】

○基礎理工学科

基礎理工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

- ・基盤科学における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている【DP-N-1-1】

(2) 汎用的技能

- ・知識や技術の伝達に必要な文章力をもち、協調してグループ作業するためのコミュニケーション力および論理的思考力を有している

【DP-N-2-1】

- ・科学的思考力を有し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める【DP-N-2-2】

(3) 態度・志向性

- ・獲得した知識や技術を用いて社会を幅広い視野で捉え、その発展のために貢献できる【DP-N-3-1】
- ・知識と技術を正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-N-3-2】
- ・最新科学の知識および技術とその応用のために自ら研鑽し習得できる【DP-N-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・コミュニケーション力などを総合的に活用して問題を解決できる【DP-N-4-1】

○環境科学科

環境科学科は、カリキュラム・ポリシーで示した教育により、次の能力を獲得したと認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・住環境から食環境までの広範囲な知識を有し、身の回りの生活や地球環境の改善に適切に応用する能力を備えている【DP-U-1-1】

・「食環境」分野では、食の安全・安心を守る知識や技術、生命を維持するための「食」に関する化学的な知識をえると同時に、食品・健康分野の知識、新たなバイオ素材や生物に作用する化学物質・有害物質の知識を有し、生態系への影響などを幅広く考察できる能力を備えている

【DP-U-1-2】

・「住環境」分野では、空気調和・水の浄化や創・蓄エネルギーのための機能性材料の開発や、環境への負荷や安全性に配慮したエネルギーの有効活用技術や、生活環境を改善する機器の開発、設計、製造ができる能力を有している【DP-U-1-3】

・ICT(Information and Communication Technology)社会に適応でき、機械学習や AI (Artificial Intelligence)などの新しい社会基盤技術を活用するための基礎を身に付けており、データ科学者等と協働する能力を有している【DP-U-1-4】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-U-2-1】

・科学的な思考で判断決断し、粘り強い意志で行動し、問題解決に取り組める【DP-U-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、倫理観と責任感を持って、社会の発展のために行動する【DP-U-3-1】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続ける【DP-U-3-2】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-U-4-1】

○建築学科

建築学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・人と社会を理解し、自然に関する科学的知識と建築に関する基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えていること【DP-C-1-1】

(2) 汎用的技能

・建築に関する知識に加えて、IT 技術や ICT 技術を活用し、効率良く問題解決に取り組むことができる【DP-C-2-1】

(3) 態度・志向性

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有すること【DP-C-3-1】

・個性を發揮しながらも他人と協調して、自らの役割を、責任を持って果たし、社会に貢献できる能力を有すること【DP-C-3-2】

・自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営む価値観を有すること【DP-C-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-C-4-1】

◎情報通信工学部

(情報通信工学部の統一的学位授与方針)

情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのため、各学科における所定の単位を修得し、情報通信工学分野のスペシャリストとして社会に貢献できる以下のような能力をもった者に「学士(情報工学・工学)」の学位を授与します。

(1)情報通信工学の基礎知識と高度情報化社会で活躍できる情報収集能力、問題分析能力

(2)実践を通じた問題解決力、高度な情報通信技術者としてのコミュニケーション能力

(3)多様化する社会からのニーズに対応できる自律的かつ意欲的なキャリア形成を目指した総合的能力

○情報工学科

情報工学科では、数理的な知識体系に基づき、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを創り出すための基盤的かつ横断的な知識と技術を身に付け、多様な分野において応用展開できる人材を育成することを目指しています。そのため、次の能力を有すると認めた学生に学士(情報工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・高度な知識や技術を自律的かつ意欲的に学ぶことができる【DP-P-1-1】

(2) 汎用的技能

・情報工学の専門的技術者として自他ともに認める存在となる技能を有している【DP-P-2-1】

・情報工学を必要とする多様な分野において、将来にわたり活躍できる力を有している【DP-P-2-2】

(3) 態度・志向性

・他人と協調しつつ己の責任を全うし、社会に貢献することができる【DP-P-3-1】

・大学院進学など、高度なキャリアを自ら進んで形成することができる【DP-P-3-2】

・先進的で自由な発想に基づき、新たな価値を創出することができる【DP-P-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-P-4-1】

○通信工学科

通信工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・通信工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている【DP-F-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-F-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める【DP-F-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる【DP-F-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-F-3-2】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる【DP-F-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-F-4-1】

◎医療健康科学部

(医療健康科学部の統一的学位授与方針)

医療健康科学部では、学科ごとの教育課程を経て、以下の知識や能力を修得することが求められています。所定の単位を修めた学生には、各学科で定める分野における学士の学位を授与します。

(1)人間性・科学性、国際性、倫理観を有し、高齢社会や地球環境との関わりについて総合的に考える力

(2)医学、医療工学、工学・情報学、福祉工学、理学療法学、健康スポーツ科学の幅広い専門知識と実践的能力を有し、常により良いものを追求する問題発見・解決力

(3)実験・演習等の実践科目：実際に「手」を動かして与えられた課題に取り組める能力

(4)医療科学、理学療法学、健康スポーツ科学の専門分野に関する基礎力を有し、医工学、健康スポーツ科学の融合領域について総合的視野から新しい医療福祉技術を創造する力

○医療科学科

医療科学科は、所定の単位を取得し、次の要件を満たす学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・臨床工学技士として医療業務に従事できる基礎的専門知識と応用力を有している。【DP-L-1-1】

・医学に精通した医療機器エンジニアとしての専門知識・応用力を有している。【DP-L-1-2】

・生体情報工学に精通した知能情報エンジニアとしての専門知識・応用力を有している。【DP-L-1-3】

(2) 汎用的技能

・多職種連携ができるコミュニケーション力とドキュメント作成力を有している。【DP-L-2-1】

・医学・工学の知識に基づいた科学的思考力・判断力を有している。【DP-L-2-2】

(3) 態度・志向性

・チーム医療のスタッフとして医療に貢献しようとする態度を身に付けている。【DP-L-3-1】

・修得した知識や技術を用いて技術開発を目指す意欲と態度を身に付けている。【DP-L-3-2】

・社会的公正性と倫理観を持ち、社会に貢献しようとする態度を身に付けている。【DP-L-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・知識・技能・態度等を総合的に活用した問題解決能力を有している。【DP-L-4-2】

○理学療法学科

理学療法学科は、所定の単位を取得し、以下の要件を満たす学生に、学士(理学療法学)の学位を授与します。

(1)知識・理解

・理学療法士として必要な医学の基礎知識を有し、かつ保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる専門知識を有している【DP-Y-1-1】

・理学療法士国家試験に合格するレベルの総合的知識を有している【DP-Y-1-2】

(2)汎用的技能

・チームワークアプローチを基本とするリハビリテーション医療のスタッフとして、協調的に業務に参加するコミュニケーション能力を身に付けている【DP-Y-2-1】→日本語科目

・健康科学及び情報科学の基礎知識に基づく思考力と判断力を身に付けている【DP-Y-2-2】

・生命倫理や人の尊厳について幅広く理解するとともに国際化および情報化社会に対応できる能力を身に付けている【DP-Y-2-3】

→人文・社会・自然科目, 外国語科目

(3)態度・指向性

・豊かな人間性を持つとともに、責任感、倫理観、奉仕の精神などの医療従事者としての基本的な考え方を身に付けている【DP-Y-3-1】

・対人援助職、社会人として、良好な人間関係を構築できる基本的な態度を身に付けている【DP-Y-3-2】

・知識・技術を常に向上させようとする積極的な態度を身に付けている【DP-Y-3-3】

・粘り強い意志をもって行動し、問題解決に取り組む力を身に付けている【DP-Y-3-4】

→健康スポーツ科目

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

・多様な課題に対して、修得した知識、技術、態度など総合的に活用し、自ら問題を抽出し、解決できる。【DP-Y-4-1】

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、次の能力を有すると認められた学生に学士(健康科学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・健康スポーツ科学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている【DP-S-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業・教育指導に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-S-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、あきらめることなく問題解決に取り組める【DP-S-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、人々の健康維持・増進のために貢献できる【DP-S-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-S-3-2】

・青少年の健康教育においてその知識や技術のみならず、常識的な態度や生活習慣を指導することができる【DP-S-3-3】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる【DP-S-3-4】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-S-4-1】

◎総合情報学部

(総合情報学部の統一的学位授与方針)

総合情報学部では、芸術表現力や科学技術力を基盤とした実学教育を通して、以下の目標を達成し、所定の単位を修めた学生に対して、「学士(情報学)」の学位を授与します。

(1)「総合科目」を通して、豊かな人格形成の基盤となる知識と教養を養うとともに、以後の学習方法を修得していること

(2)「講義・演習・実験」を通して、国際社会で通用する専門的知識と技能・技術を身に付けていること

(3)「卒業研究」または「卒業制作」を通して、高度の専門的実践力を身に付けていること

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、次の能力を有すると認められた学生に学士(情報学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野の基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている

【DP-W-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-W-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める【DP-W-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる【DP-W-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-W-3-2】

・最新科学技術の獲得とその応用のため研鑽を続けられる【DP-W-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-W-4-1】

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野における基礎的な専門知識を包括的に有し、それらを適切に応用する能力を備えている

【DP-B-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している【DP-B-2-1】

・科学的な思考力で判断決断し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める【DP-B-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる【DP-B-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している【DP-B-3-2】

・最新科学技術の獲得とその応用のため研鑽を続けられる【DP-B-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる【DP-B-4-1】

○情報学科

情報学科では、次の能力を有すると認めた学生に学士の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・情報処理技術者に必要な数学や情報学の知識を持つ【DP-T-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術者として必要な情報リテラシー能力を有する【DP-T-2-1】

・情報処理技術者に必要なコミュニケーション、プレゼンテーション及び外国語の基礎能力を有する【DP-T-2-2】

(3) 態度・志向性

・技術者としての倫理、心構えを身に付け社会に貢献できる【DP-T-3-1】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・種々の問題を解決するためのエンジニアリングデザイン能力を有する【DP-T-4-1】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/graduate-policy_2021.pdf)

(概要)

(全学の統一的教育方針

大阪電気通信大学では、時代のニーズである ICT(Information and Communication Technology)を共通の基盤として、一人ひとりの学生がそれぞれの専門的な人間力を培い、社会で役立つ人材として成長することを目指しています。そのために、各学部・学科において実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築し、個々の学生が主体的にかつ計画的に学び、実際に社会で活用できる能力を身に付けていくことを教育方針の基本としています。

その学修効果を高めて、学修した知識や技能を実質化していくために、実学の学びの課程を、次の 4 つの OECU* ステップ:ときめき(Opportunity) → 実践(Experience) → 感動(Capability) → 発展(Utility)に分類しています。それをガイドラインとして、主体的にかつ楽しみながら学修を進めていけるよう、各学科の教育課程の流れを図式化したカリキュラム・ツリーで表現しています。

まず、入学の機会(Opportunity)を得た段階で、各学科の導入教育や入門講座などによって、将来こんなことや、あんなこともできるという「ときめき」を覚えてもらいます。次に、基礎専門科目と演習、実験・実習などによって、各学科で学んでいく専門の基礎の部分を「実践」(Experience)しながら学修します。2 年次から 3 年次へと、専門科目の学修を深めていく段階では、ますます実学の有効性(Capability)を感じ取って、より大きな「感動」を覚えるようになります。最終学年では、修得した知識や技能を活用しながら、主に卒業研究やゼミナールを通して学びを「発展」させ、その活用性(Utility)を体験していきます。このような専門教育の流れ

に、人文社会系の総合科目や語学、キャリア科目を体系的に組み合わせて学修していくことにより、人間力やコミュニケーション能力を総合的に培っていくと同時に、社会で活躍していく自分の将来像を思い描くことができるキャリアデザインの能力も養っていきます。

また、本学では実学学修の一環として国家資格などの取得を奨励しており、受験に向けた学習支援を行っています。

* OECU は本学の英文名 (Osaka Electro-Communication University) の頭字語です。

◎工学部

(工学部の統一的教育方針)

工学部では、工学の幅広い専門知識と基礎力を身に付ける実学教育を基盤としています。そのために、以下のカリキュラムを用意しています。

(1) 初年次教育: プロジェクト活動スキル入門、○○(学科名)入門を1年次に配しています。大学教育を受ける体制を整え、学生同士のつながりも深まります。

(2) 基礎専門科目: 数学関係科目においては理工系学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指して統一した科目配置を行い、物理関係科目においては専門学科とのつながりを考慮した物理・力学の習得を目指して学部・学科の特色に応じた科目配置をしています。

物理関係では、力学と振動・波動の科目に数学のプレイスメントテストと高校「物理」の履修状況を考慮した習熟度クラスを設けて、無理なく学びながら習熟度アップを目指します。必要に応じて再履修クラスを設けるなど、繰り返し学習する環境を提供し、基礎力の確実な習熟を目指します。

(3) 総合科目・語学: 人間形成に必要な総合科目と国際化に必須の英語は、1, 2, 3 年次いずれでも履修できるようにしてあり、学生の成長に応じてステップアップできます。

(4) 専門科目: 各学科の基幹の専門科目と advanced な科目を明確にし、学生の到達目標に応じて選択できます。

(5) プロジェクトスキル科目: 社会人基礎力を育むためプロジェクト活動系科目を各学年に配し、インターンシップにも取り組んでいます。

(6) プレゼミ: 3 年次後期でプレゼミを行い、4 年次の卒業研究にスムーズにつなげています

(7) 卒業研究: 卒業研究はそれまでの学習の集大成ととらえ、問題解決能力やコミュニケーション能力が最大限発揮できるように、研究室に配属して個別指導を行っています。

そのほか、e-learning、TA (Teaching Assistant) 制度の活用や、実験・実習科目での企業退職熟練技術者による細やかで実践的な指導を行っています。また、各学科で部分的にクォーター制を導入して、集中学習による学修効果の向上を図っています。

○電気電子工学科

電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-E-1-1】

・電気電子工学分野に関する「技術力」【CP-E-1-2】

・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-E-1-3】

・電気電子工学分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる「知識・理解力」【CP-E-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため電気電子工学入門などで大学の学習に必要な能力を育成します。

電気電子工学分野のイメージ獲得のための教育(電気電子工学入門、工学基礎実験)とこの分野の専門科目を学ぶための基礎学力の養成(数学、物理、電磁気学、電気回路、情報工学)に重点をおいた教育を行います。【CP-E-2-1】

・教養教育

将来に電気電子工学分野で活動する人間としての基礎力を身に付けることが必要です。このため、総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。外国語群の英語においては、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行うことで電気電子工学分野の文献を読むことができる力を養います。【CP-E-2-2】

・専門教育

2年次では、電気・電子回路」をベースとして、「電子・光デバイス」、「エネルギー・電気応用」、「計測制御」、「情報」の各専門分野の基礎教育を行います。【CP-E-2-3】

3年次では、2年次で学んだ専門分野をより深く学ぶと共に、それらの応用領域の教育を拡充していきます。企業連携講座などの企業技術者による技術講義とインターンシップにより、大学での学びと実社会とのつながりをより具体的に体験します。これらにより、卒業後にむけた学びの姿勢の強化を図るとともに、企業におけるグループワークおよびコミュニケーションの重要性を理解します。【CP-E-2-4】

4年次では、卒業研究により、更に専門を深めると共に、新しい課題に取り組む際の手法を体得します。「環境と人にやさしいテクノロジー」を実現させるという理念に基づいて、調査、計画立案、計画実行・調整、報告などの一連の作業を、包括的な指示のもとで自ら進めていくことを体験し、主体的な行動力を身に付けます。また、より高度な技術や情報を自ら進んで積極的に獲得する習慣を身に付けます。【CP-E-2-5】

・プロジェクトスキル教育

キャリア形成群を設け、初年次のプロジェクト活動スキル入門、プロジェクト活動、キャリア設計プロジェクト実践、と入学時から学修の動機付けを行うとともに段階的に自身のキャリアを多角的に考え、社会における貢献を具体的にイメージできるように指導します。【CP-E-2-6】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-E-3-1】

・主要な科目においてクォーター制を導入し、四半期に同じ科目を週2回集中して受講することで、学修効果を高めます(カリキュラム・ツリー中でQマークの科目)。【CP-E-3-2】

・基礎を確実に身に付けるようにオフィスアワーなどの講義外個別学習支援を実施します。【CP-E-3-3】

・多くの科目で演習を取り入れることによって、より具体的な事例で理解を深めます。特に、電気電子回路は本学科の基幹科目であり、徹底した演習により実践的な能力を身に付けます。【CP-E-3-4】

・実験科目を通して、電気電子工学分野のモノづくりを理解すると共に、主体的行動とグループ作業における協調性・責任感を身に付けます。【CP-E-3-5】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います【CP-E-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します。【CP-E-4-2】

・学修過程を具体的に把握するためアンケート調査による点検を学期毎に実施し、教員との面談を通じて以降の学習計画を的確に立案します。【CP-E-4-3】

・専門科目別に成績優秀者を表彰し、幅広い電気電子工学分野の中でも、得意な分野の重点的な学修を奨励します。【CP-E-4-4】

・卒業研究発表会を学科全体で実施し、研究内容だけでなく、文章力、コミュニケーション力、プ

レゼンテーション力が身に付いているか評価します。【CP-E-4-5】

(5) 進路

電気電子工学科の卒業生は、電子機器、電子デバイス分野、情報システム分野、電気制御分野、電気設備、エネルギー関連分野での研究開発、管理・保全・販売などに関わる技術者、工業・技術分野での教育者、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-E-5-1】

○電子機械工学科

電子機械工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-H-1-1】
- ・機械、電気・電子、計測・制御、情報・コンピュータの分野に関する「技術力」【CP-H-1-2】
- ・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-H-1-3】
- ・機械、電気・電子、計測・制御、情報・コンピュータの分野の全体にわたる基礎的な事項を説明できる「知識・理解力」【CP-H-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため共通専門科目などで大学の学習に必要な能力を育成します。

【CP-H-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-H-2-2】

・専門教育

コース基礎専門科目とコース専門科目、メカトロニクス共通科目に分類し、「メカトロニクス」を理解するために必要な機械、電気・電子、計測・制御、情報・コンピュータの基礎学力を学ぶと共に、これらを適切に融合し応用できる、実践的能力を身に付けます。また、実習・実践科目では、獲得した知識や技能を総合的に活用することで、課題解決のための創造的思考力を身につけます。【CP-H-2-3】

・プロジェクトスキル教育

日本語表現を含めたコミュニケーション能力の向上を目指します。また、社会人になるための基礎知識、マナーを習得します。【CP-H-2-4】

(3) 教育方法

- ・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-H-3-1】

(4) 学修成果の評価

- ・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-H-4-1】
- ・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します【CP-H-4-2】
- ・学修効果を具体的に把握するために、成績配布時にグループ担任が学生と面談を実施します【CP-H-4-3】

(5) 進路

電子機械工学科の卒業生は、機械分野、電気・電子分野、及びそれらを融合したメカトロニクス分野、ロボット関連分野を始め、プラント建設、食品関連分野などの幅広いモノづくり産業での研究・開発、管理・保全・販売などに係る技術者、高校の工業・技術科の教員、高校・中学の数学の教員、大学院への進学などの進路を選択しています【CP-H-5-1】

○機械工学科

機械工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-J-1-1】
- ・機械工学分野に関する「技術力(基礎力、応用力)」【CP-J-1-2】
- ・自分の意見を『伝え』、異なる他者の意見を『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-J-1-3】
- ・機械工学分野の全体にわたる基礎的な「知識・理解力」に基づき、事項の概要を説明し実践できる「応用力」【CP-J-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため、数学、力学を学ぶ基礎専門科目では機械工学を学習するために必要な能力を育成します。また、機械工学入門ではこれから学ぶ機械工学の概要を学ぶとともに、実験・実習を通して技術者として必要なコミュニケーション力の基礎を身につけます。【CP-J-2-1】

・教養教育

機械工学は、よりよい社会、安全で便利な暮らしを実現するために存在します。また、これからの機械工学は自然と協調、共存できるものでなければなりません。専門教育で学んだ知識を社会で活用するためには、人間、社会そして自然に関する知識を持っていることが必要になります。また、異なった言語・文化を持つ国・地域の人々とも交流できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる力も必要です。

総合科目ではこれらの「人間・社会・自然に関する基礎的な知識」、「異なった言語・文化を持つ人々と交流できる力」、「健康で力強く生きていくことのできる方法」を学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群の科目を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。また、技術と倫理の科目では、技術者が持つべき倫理観を理解し、社会貢献の意義を学びます。【CP-J-2-2】

・専門教育

基礎専門科目と専門科目とに分類し、基礎専門科目ではモノづくりに求められる数学や力学を学びます。専門科目では機械工学の基盤となる4力学(材料力学、流体力学、熱力学、機械力学)や設計、製図、機械加工などを学びます。また、基盤の専門科目に併設された演習において、自ら問題を解くことにより、確実な知識の理解と応用力を高めます。さらに機械工学実験では技術習得、報告書の作成法など、実践面を学びます。

機械創成工学実習、発展創成実習では、グループで計画を立て、実際に機械を製作する過程を経験することにより、モノづくりの方法を学ぶとともに、自らの役割と責任を実感し、社会で必要な協調性を獲得します。

卒業研究では、自ら計画的に課題に取り組み、問題を解決するための手法を学びます。また、卒業論文の作成、研究発表を通じて自分の考えを他者に伝えるために必要な文章作成力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を高めます。【CP-J-2-3】

・プロジェクトスキル教育

プロジェクトスキル形成群を設け、「プロジェクト活動スキル入門」、「キャリア設計プロジェクト実践」、「インターンシップ」などの科目を通して、機械工学と社会のかかわりについて学ぶとともに、自らの将来設計をするために必要な事柄を学びます。また、社会人として必要な知識、マナーを学びます。【CP-J-2-4】

(3) 教育方法

- ・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に

目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-J-3-1】

(4) 学修成果の評価

- ・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-J-4-1】
- ・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します。【CP-J-4-2】

(5) 進路

機械工学科の卒業生は、機械、電気などの基盤産業全般での研究開発、製造、管理、保全、販売、などに関わる技術者、工業・技術分野での教育者、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-J-5-1】

○基礎理工学科

基礎理工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-N-1-1】
- ・理工学分野全般に渡る基礎的な「技術力」【CP-N-1-2】
- ・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-N-1-3】
- ・数学・物理・化学を中心とした基盤科学全体にわたる基礎的な知識と、それらを融合して思考することのできる「知識・理解力」【CP-N-1-4】
- ・自然科学の具体的な事象及び法則を理解し、説明できる「知識・理解力」【CP-N-1-5】

(2) 学修内容(旧カリキュラム・ポリシーの学修計画など)

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため基礎専門科目などで大学の学習に必要な能力を育成します。このうち、数学および物理の基礎科目では、高校での学びに基づいた習熟度別クラス編成を行います。また、基礎理工学科で学ぶ意義を明確にし、将来進むべき道を見据えるためのキャリア形成科目を配置するとともに、工学の基本であるモノづくりを実践する科目も配置しています。【CP-N-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-N-2-2】

・専門教育

基礎理工学科では、総合科目の学修で獲得する社会で生きるための知識と幅広い視野を活かし、科学的知識と技能で人と社会に貢献するグローバルな人材を育成するため、基礎専門科目と専門科目の2段階に分かれた専門教育を行います。基礎専門科目では、数学系・化学系・物理系のそれぞれにおける本格的な大学教育への橋渡しとなる基礎的な科目を広く概観的に習得することを目指します。

数学系科目においては、理工系学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指して統一的な科目配置を行います。特に1年次における解析関係科目を重要視しており、新入生に対するプレイスメントテストなどの結果を考慮した三段階の習熟度別クラスを設定してきめ細かい対応を行っています。さらに、基礎的な科目については再履修クラスを設けて「わからないところは何度でも繰り返し学習する」精神で、習得困難な学生に対応しています。

化学系科目においては、専門学科で学ぶ内容との繋がりを意識しながらも、グローバルな視点

で理工系に求められる基礎的な化学の修得を目指して統一的な科目配当を行います。大学で学ぶ広範な化学の内容を概観し、それらを学ぶために必要な基礎知識を修得します。さらに、化学系の実験を行う際に必要となる知識を学ぶことで、実践的な学習に備えます。

物理系科目においては専門学科とのつながりを考慮した物理・力学の習得を目指して学科の特色に応じた科目配置をしています。力学と振動・波動の科目に上記プレイスメントテストと高校「物理」の履修状況を考慮した習熟度別クラスを設けて、無理なく学びながら習熟度アップを目指します。後期に再履修クラスを設けるなど、繰り返し学習する環境を提供し、基礎力向上を図ります。また物理学・実験では、物理現象に直接触れて理解を深め、工学諸分野を専攻するのに不可欠な基本的な実験操作や測定値処理法の習得を目指します。

専門科目では、基礎理工学の素養となる、数学系・化学系・物理系の科目を開講します。これらを選択必修として、バランスよく習得しながら徐々に専門性を深め、最終的には、数理科学、物質科学、宇宙科学の3分野のいずれかを中心としながら、これらにまたがる分野横断的・融合的な知識や思考力を身に付けられるようにしています。また、講義で学んだ知見を、2年次、3年次に担当されている実験や演習を通じて実践的な技能として身につけます。

数学系では、基礎専門科目を土台とし、幅広い数学的知識と数学的思考力を獲得できるよう専門科目を配置しています。他分野への応用上重要な解析系科目、確率・統計科目を中心に、代数系、幾何系、計算機系科目を設けています。

化学系では、物理化学、有機化学、無機化学といった専門性を深める科目と、産業や医療といった、実社会で役立っている、最先端の科学技術に関わる科目を選択して履修します。

物理系では、電気回路・演習や現代物理学入門など現代の先端技術を読み解くための科目から、物質科学や宇宙科学など未来への展開が期待される分野への応用を見据えた科目を設けています。

アクティブサイエンスゼミナールでは、講義や実験・演習で身に付けた知識や技術を実際の問題に適用して解決していくためのパフォーマンス課題を設定し、各自のコンピテンシーを引き出し高めるためのプロジェクト学習型アクティブラーニングを行います。ここではまた、実社会に準じて年齢・性別などの多様性を持つ混合グループを形成し課題に取り組むことで、グループワークやコミュニケーション能力の醸成も図ります。

これらの専門科目と総合科目における人間・社会に関する幅広い知識から科学的倫理観を育成します。【CP-N-2-3】

・プロジェクトスキル教育

キャリア形成群を設け、大学入学時と卒業後の将来との連続性に配慮した体系的なキャリア教育を実践します。初年次では大学及び基礎理工学科で学ぶ意義やキャリア(経験)とは何かを学びます。続いて主体的課題解決・表現・コミュニケーションなど実学へのキャリア形成法を獲得し、実際に社会に出るための具体的活動のスキルアップを図ります。【CP-N-2-4】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-N-3-1】

・学生が自ら学ぶ姿勢を重視し、個々の学修状況に応じた教育・指導環境を提供します【CP-N-3-2】

・アクティブラーニングや e-learning を取り入れ、自主的な学習を身に付けるとともに、その成果をプレゼンテーションする能力の育成も行います【CP-N-3-3】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-N-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します。【CP-N-4-2】

・学修成果を具体的に把握するためグループ担任による面談を定期的実施します。同時に、学修成果に基づいた履修指導も行います。【CP-N-4-3】

(5) 進路

基礎理工学科の卒業生は、学修により身に付けた基礎知識とそれに基づいた問題発見と解決能力、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を最大限生かすことができる広範な工学分野の技術者、数学・理科の教員(中学、高校)、教育関連分野の専門スタッフ、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-N-5-1】

○環境科学科

環境科学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-U-1-1】
- ・理工学分野全般に渡る基礎的な「技術力」【CP-U-1-2】
- ・公共心、コミュニケーション力、リーダーシップなどの「対人調整力」【CP-U-1-3】
- ・生活環境科学(生活や地球環境に関する科学)全般にわたる基礎的な「知識力」【CP-U-1-4】
- ・生活環境科学を構成する「住環境分野」「食環境分野」において、上記基礎的知識を高度に発展・統合させる「展開力」【CP-U-1-5】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。初年次では、環境科学を学ぶことへの動機付け、およびその分野の専門科目を学ぶための基礎学力の養成と基礎的な実験科目(生活科学実験、物理学実験)に重点をおいた教育を行います。これによって、専門科目への移行を容易にする理数系科目を強化します。また、学生全員が基礎を習得できるように、グループ担任がプロジェクト活動スキル入門や環境科学入門等で学修支援を実施します。

数学、化学、物理の基礎科目では、高校での学びに基づいた習熟度別クラス編成を行います。

【CP-U-2-1】

・情報教育

情報教育は今後の社会でますます欠かせない技術となります。情報系科目は共通重点科目として位置づけ、すべての学生がICT(Information and Communication Technology)社会に適応でき、機械学習やAI(Artificial Intelligence)などの新しい社会基盤技術を活用するための基礎を身に付けられるよう教育を行います。【CP-U-2-2】

・教養教育

総合科目は、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。【CP-U-2-3】

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを行い、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。

以上の教養教育は、人間社会と自然環境の摂理の理解、帰属意識、健康管理および日本語および外国語の運用に必要とされる4技能を向上させ、後に続く専門教育で学ぶ工学的技術や知識に必要な背景を理解することを助け、それによって最新技術の習得や深い知識を獲得することを促進します。【CP-U-2-4】

・プロジェクトスキル形成群

1年次から3年次までの間に、「プロジェクト活動スキル入門」、「プロジェクト活動演習1・2」、「キャリア設計プロジェクト実践」のプロジェクトスキル形成群を設けています。これらの科目は大学での学びにより環境関連分野で社会に貢献できる技術者としての成長することを促すために設けています。特に、プロジェクト活動スキル入門では大学での学びのスキルを獲得するために少人数クラスで学科教員が担当します。また、キャリア設計プロジェクト実践では環境関連分野でのキャリア形成に特化した内容を学科教員が教育します。【CP-U-2-5】

・専門教育

2年次では、食品から住環境までの基本を広く学びます。また、環境科学科では、所定の単位を取得することにより、「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員任用資格」が得られること

から、学生の希望を聞いたうえで専門科目・実験科目の履修をするように指導します。しかしながら視野を広げるためには、様々な分野の知識・体験が必要であることから、できるだけ幅広い多くの専門科目を履修するよう指導します。

3 年次では、専門分野の基礎をより深く学ぶとともに、それらの応用領域の教育を拡充し、より深い専門分野の学修、および卒業後でも学び続けていけるよう、学ぶ姿勢の強化を図っています。また、各種資格にも対応する専門性を高めていきます。

4 年次では、卒業研究により、特定の分野の専門性を高めるとともに、新しい課題に取り組む場合の手法を体得します。身の回りの食環境、住環境についての正しい知識の習得と環境意識の向上、およびそれらを解決する手段としての知識を習得させることを目指して、包括的な指示の下で自ら卒業研究を進めていくことを体験し、主体的な行動力・問題解決能力・実践力を身に付けます。

年次ごとの学修のほかに座学中心の一方通行の授業から、年次を超えたグループによるプロジェクト型の学びを提供しています。これにより、目的・目標の設定、問題の解決などの実社会で行われているプロジェクトの遂行手法を体得します。さらに、カリキュラム以外でも、環境科学科の教員有志による、公害防止管理者試験(水質)、eco 検定などの資格支援講座を開催して、就職や将来に役立てられる資格取得の支援を行っています。【CP-U-2-6】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-U-3-1】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、学修指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-U-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も支援ツール上で提示します。【CP-U-4-2】

・学修成果を具体的に把握するためグループ担任による面談を定期的実施します。同時に、学修成果に基づいた履修指導も行います。【CP-U-4-3】

(5) 進路

・環境科学科の学生は、製造業、設備・サービス業分野の技術者、教員、公務員、大学院への進学などの進路を選択しています【CP-U-5-1】

○建築学科

建築学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・建築を設計、建設するために必要な基礎的専門知識と技術を着実に身につけます【CP-C-1-1】

・環境、エネルギー、情報といった建築に関連する分野の知識を身につけます【CP-C-1-2】

・コンピュータを駆使して、CAD(Computer Aided Design)により図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、BIM(Building Information Modeling)により、3次元で建物をデザインしながら、そこに様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術を身につけます【CP-C-1-3】

・自ら進んで学び、人々と積極的に交流できる力を磨きます【CP-C-1-4】

・建築物の社会的影響を理解し、技術者としての倫理観と責任感を身につけます【CP-C-1-5】

・独創的な仕事を遂行するため、個性を活かし、アイデアを出す力を磨きます【CP-C-1-6】

・自分の意見を説明し、かつ他人の意見を聞き、最適な建物・まちづくりができるコミュニケーション力を身につけます【CP-C-1-7】

(2) 学修内容

建築学科では、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対しては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養

成する教育を実施します。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者を養成する教育を実施します。

さらには、広く京阪エリアを対象に地域の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力(社会人基礎力)を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を実施します。

・初年次教育

建築分野の専門科目を学ぶための数学、物理、電気、情報などの基礎学力を身につけるための教育を行います。さらには、建築学の導入教育として「建築学入門」に重点をおいた教育を行います。【CP-C-2-1】

・教養教育

将来に建築分野で活動する人間としての基礎力を身に付けることが必要です。このため、総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。【CP-C-2-2】

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行うことで建築分野の文献を読むことができる力を養います。【CP-C-2-3】

・専門教育

(a) 設計に必要な製図を、最初は製図板を用いて学び、設計製図の基礎を身につけます。次に、本学の得意分野であるIT技術を活かして、CADを用いて図面を描きます。さらに、最先端のICT技術であるBIMやデジタルデザインについても学びます。【CP-C-2-4】

(b) 一級・二級建築士受験資格に必要な建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規について学修します【CP-C-2-5】

(c) まちづくりプロジェクトのようなアクティブラーニングにより、地域の人々の話を聴き、地域の行事に参加し、地域の方々と一緒にまちづくりを考える力を身につけます【CP-C-2-6】

・プロジェクトスキル教育

キャリア形成群を設け、初年次のキャリア入門、キャリア概論、キャリア設計と入学時から学修の動機付けを行うとともに段階的に自身のキャリアを多角的に考え、社会における貢献を具体的にイメージできるように指導します【CP-C-2-7】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-C-3-1】

・基礎を確実に身に付けるようにリメディアル教育の実施やオフィスアワーなどの講義外個別学習支援を実施します【CP-C-3-2】

・多くの科目で実習を取り入れることによって実践的に学び、技術と知識を深め、さらには主体的行動とグループ作業における協調性・責任感を身に付けます【CP-C-3-3】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞の対象者選抜等に用います。【CP-C-4-1】

・各学期末に、主要な科目の成績を学修効果測定グラフにより OECU MyPortal 上で提示します。また、学科が定める分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します。【CP-C-4-2】

・学期毎に教員との面談を実施して、履修指導や学習計画の指導を行います【CP-C-4-3】

(5) 進路

建築学科の卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、建築設計事務所、総合建設会社(ゼネコン)、建築設備会社、住宅メーカーや住宅関連の設備

会社へ就職します。また、行政担当者、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路があります。【CP-C-5-1】

◎情報通信工学部

(情報通信工学部の統一的教育方針)

本学部では、情報通信工学技術を実践的に教育し、情報化社会の発展に貢献できる人材を育成することを目指しています。そのため、情報通信社会を支えるソフトウェア、ハードウェア、ブロードバンド、マルチメディア、インターネットに関する基盤科目、実験科目がバランスよく含まれたカリキュラムに基づいて、実学教育を実行しています。また、各学科で部分的にクォーター制を導入して、集中学習による学修効果の向上を図ります。

(1) 数学関係科目においては理工系学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指して統一的な科目配置を行い、物理関係科目においては専門学科とのつながりを考慮した物理・力学の習得を目指して学部・学科の特色に応じた科目配置をしています。

物理関係では、力学と振動・波動の科目に数学のプレイスメントテストと高校「物理」の履修状況を考慮した習熟度クラスを設けて、無理なく学びながら習熟度アップを目指します。後期に再履修クラスを設けるなど、繰り返し学習する環境を提供し、基礎力向上を図ります。

(2) 充実したキャリア支援科目は、将来の進路選択をサポートし、幅広い情報通信関連の職業に就けるように作成されています。

(3) ハードウェアとソフトウェアの両面から情報通信工学を体系的に学び、情報通信技術について深く理解することで、近未来における急激な技術の進歩にも柔軟に対応でき、将来の情報通信システムの発展に寄与できる、真の情報通信技術者を育成します。

(4) 情報通信をより高品質で快適に行える新世代ネットワークシステムや、携帯電話などをはじめとした通信の性能を飛躍的に向上させる通信方式など、コンピュータネットワークに関する教育・研究を通じて情報通信の未来を担う人材を育成します。

○情報工学科

情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合い、よりよい社会を築いていこうとする人々の願いに応えることのできる「人間力」【CP-P-1-1】

・情報工学分野に関する「技術力」【CP-P-1-2】

・自分と異なる他者の意見を聴き、相互理解することができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-P-1-3】

・情報工学分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる「知識・理解力」【CP-P-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。初年次では、数理的な知識を基礎に、ハードウェアからソフトウェアに至る基盤的専門知識を体系的に身に付けます。それにより、情報系の資格取得に十分な専門知識を習得し、これらの知識を応用する上で必要となるプログラミング能力およびコンピュータ活用能力を体得します。また、演習科目を取り入れて、コンピュータの本質的な計算能力や工学的応用の仕組みを実践的に学びます。【CP-P-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-P-2-2】

・専門教育

専門教育では、多様な分野にわたる専門科目を学修し、情報工学の豊かな応用力を体得します。2 年次からは、情報工学の幅広い応用分野に対応するため、情報工学の基礎技術・技能を高めるとともに、4 つの基幹応用分野である知能情報科学、データサイエンス、情報システム、メディア情報処理の基礎を学びます。3 年次では、最新の技術や知識に対応するため、幅広い観点から基礎をさらに発展させ、専門技術・知識に対する理解を深めます。また、1 年から3 年次までの一貫した情報工学関連の実験・演習活動に取り組むことにより、自律的な学習能力と技術者としてのコミュニケーション能力を体得します。また、4 年次には、以上の能力の総合演習として、本格的な研究開発プロジェクトである卒業研究に取り組みます。卒業研究では、具体的な研究プロジェクトに参画し、実践的な問題解決能力、および知的生産活動に不可欠な口頭発表・文章構成の能力を身に付けます。具体的には、卒業後も先進的な技術に対して、自律的学習を継続できるような応用力、情報収集能力、問題分析能力を獲得します。【CP-P-2-3】

・プロジェクトスキル教育

キャリア形成群を設け、初年度からキャリア形成の手助けを行うと同時に、就職活動サポートを行っています。キャリア教育と専門教育とを通して、多様化する社会からのニーズに対応した柔軟なキャリアを形成していく能力を総合的に体得します。【CP-P-2-4】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-P-3-1】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-P-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します。【CP-P-4-2】

・学修成果を具体的に把握するためグループ担任による面談を定期的に行います。同時に、学修成果に基づいた履修指導も行います。【CP-P-4-3】

(5) 進路

情報工学科の卒業生には、IT 産業を始めとして、モノづくり産業からサービス産業に至るまで、あらゆる業種で活躍の場があり、知能情報技術者、データ科学者、IoT システムやクラウドシステムなどのコンピュータシステム・ネットワーク技術者、アプリケーション開発・運用技術者として就職する他、工業・情報分野の教育者の道や大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-P-5-1】

○通信工学科

通信工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-F-1-1】

・通信工学分野に関する「技術力」【CP-F-1-2】

・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-F-1-3】

・通信工学分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる知識・理解力【CP-F-1-4】

・通信工学を支えるハードウェア技術及びソフトウェア技術について理解し、説明できる知識・理解力【CP-F-1-5】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため基礎専門科目などで大学の学習に必要な能力を育成します。【CP-F-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。ま

た、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

特に英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-F-2-2】

・専門教育

基礎専門科目と専門科目とに分類し、通信工学の基礎から応用分野まで幅広く通信技術を学びます。【CP-F-2-3】

・プロジェクトスキル教育

プロジェクトスキル形成群を設け、初年度からプロジェクトスキル形成の手助けを行うと同時に、就職活動サポートを行っています。

【CP-F-2-4】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-F-3-1】

・得られた成績について論評を与え、学習方法などの助言をすると同時に半期ごとの目標設定の手助けを行います。【CP-F-3-2】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-F-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPortal 上で提示します。【CP-F-4-2】

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。【CP-F-4-3】

(5) 進路

通信工学科の卒業生は、情報通信産業、通信建設業、電気設備・製造業分野の技術者、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-F-5-1】

◎医療健康科学部

(医療健康科学部の統一的教育方針)

医療健康科学部は、人々の生活の質の向上を目指し、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用を教授研究し、当該分野で主体的に活躍できる人材を育成することを目的としています。この教育目標を実現させるため、以下のように各学科の教育指針を定めて、主体的に活動できる専門性を持った多様な人材を育成し、豊かな人間性を育み、個性を大切にしながらも協調性やコミュニケーション、礼儀を重んじる良識ある社会人を輩出するように教育課程(カリキュラム)を編成しています。

(1) 医療科学科では、安心・安全かつ質の高い医療や健康福祉技術を実現させるために医学と工学・情報学が連携する分野(臨床医工学・情報学、福祉工学)について教授研究し、この分野の専門知識を有した技術者や高度医療を推進する臨床工学技士として社会のニーズに応えうる人材を育成・輩出します。

(2) 理学療法学科では、身体機能と基本的動作および日常生活活動を改善するための治療および指導技術について教授研究し、リハビリテーション技術の高度化を推進するなど、当該分野で活躍できる工学的素養を身に付けた理学療法士を育成・輩出します。

(3) 健康スポーツ科学科では、生涯を通じた国民の健康水準を保持・増進し、健康づくりに寄与するため、臨床医学・情報科学などをベースとした健康スポーツ科学について教授研究し、この分野の専門知識を有した技術者や健康づくりを推進する健康運動指導士として活躍できる人材を育成・輩出します

○医療科学科

医療科学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、「臨床工学技士」、「医療機器エンジニア」、「知能情報エンジニア」の進路が選択できるように教育課程を編成しています。

(1) 獲得すべき力

・高度化・多様化する医療技術に対応できる「人間力」と「基礎的知識・医療技術力」【CP-L-1-1】

・安心・安全な医療を実現するために、安全に対する「高い意識」、「知識・技能」【CP-L-1-2】

・チーム医療の一員として多職種連携ができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-L-1-3】

・医療機器エンジニアとして医療機器・健康機器・生活支援機器の開発に関する「基礎知識」と「技術力」【CP-L-1-4】

・知能情報エンジニアとして生体計測・プログラミング(AI)に関する「基礎知識」と「技術力」【CP-L-1-5】

(2) 学修内容

・初年次教育

(a) 異文化と相互理解できる力、科学的思想の基盤、人間と生活、語学などの総合科目を配当し、人間性、国際性、倫理観などの社会人基礎力を養います。【CP-L-2-1】

(b) 高度化が進む医療技術や生活支援技術を学び、学修計画を立て、体験実習により学びのモチベーションを高めます。【CP-L-2-2】

(c) 数学、英語については学生の習熟度に応じたクラスを編成し、安心して学び、基礎力を養います。【CP-L-2-3】

(d) 解剖学、生理学、エレクトロニクス、情報に関する科目を配当し、医学と工学の基礎教育を開始します。【CP-L-2-4】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-L-2-5】

・基礎専門教育

(a) 医学概論、公衆衛生学、人体の構造及び機能に関する科目を学び、医学的基礎となる知識を修得します。【CP-L-2-6】

(b) 基礎工学の科目と理解を深める実験を行い、医療機器の仕組みや動作の理解に必要な基礎力を養います。【CP-L-2-7】

(c) 医用画像、生体計測に必要な医療情報技術及びシステム工学の基礎的知識を修得します。【CP-L-2-8】

(d) レポートの書き方を実践的にわかりやすく教授し、ドキュメント作成力を養います。【CP-L-2-9】

・専門教育

(a) 内科学、外科学などを体系的に学ぶことで臨床医学に関する専門知識を修得します。【CP-L-2-10】

(b) 医用生体工学や生体機能代行技術学などを学び、医療技術に関する専門知識と技能を養います。【CP-L-2-11】

(c) 電気電子工学、情報学、機械工学を学び、工学・情報技術を医療健康分野に応用する能力を養います。【CP-L-2-12】

(d) ヒト型ロボット製作、生活支援工学などを学び、医療機器エンジニアとしての素養を養います。【CP-L-2-13】

(e) プログラミング応用実習などを学び、知能情報エンジニアとしての素養を養います。

【CP-L-2-14】

(f) 医用機器安全管理学を配当し、医療安全に対する高い意識、知識・技能を養成します。

【CP-L-2-15】

(g) 医療機関で実施する臨床実習では、臨床現場での実践的知識を修得できるように実学教育を行います。【CP-L-2-16】

(h) 卒業研究は学部教育の集大成であり、研究に取り組み、問題解決力、プレゼンテーション力を養います。【CP-L-2-17】

・臨床工学技士国家資格

(a) 厚生労働省指定科目を開講し、理解を深める実験や実習、e-learning により合格に必要な知識・技能を養います。【CP-L-2-18】

・キャリア教育

(a) 医療科学基礎実習で理系の作文技術、プレゼンテーション能力を養います。【CP-L-2-19】

(b) プレゼミは、少人数で課題に取り組み、主体的・継続的に学修する能力を高めます。【CP-L-2-20】

(c) ME 技術実力検定試験(第1種、第2種)、医療事務や医療機器情報コミュニケーター(MDIC)、基本情報技術者試験や医療情報技師能力検定試験などの資格が取得できるように支援します。【CP-L-2-20】

(d) 実務経験豊富な講師によるセミナーを開催して社会人としてのマナー、心構えなどの素養を養います。【CP-L-2-21】

(3) 教育方法

・学習する支援ツール MyPortal を利用して、長期的な学修状況を振り返ることができます。

【CP-L-3-1】

・臨床工学・健康科学・生活支援工学の技術者としての素養を身に付けるための e-learning システムが利用できます。【CP-L-3-2】

・実験・実習・演習科目においては、きめ細かい指導が受けられるように、TA 制度を導入しています。【CP-L-3-3】

・講義などの時間だけでなく、オフィスアワーを設け、個々の学生に合わせた対応を実施しています。【CP-L-3-4】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA 評価と A(優)の取得数により、修学指導を行います。【CP-L-4-1】

・各学期末に、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを MyPortal 上で提示します。

【CP-L-4-2】

・医療機器エンジニアや情報エンジニアとしての基礎知識を確認する実力テストを実施します。【CP-L-4-3】

(5) 進路

医療科学科の卒業生は以下の進路で活躍しています。

(a) 大学院に進学し、臨床工学技士養成校の教育職(教員)、高度医療機器の開発職に従事【CP-L-5-1】

(b) 医療機関で臨床工学技士として医療業務に従事【CP-L-5-2】

(c) 医療系企業などで医療機器エンジニアとして医療機器の開発・設計業務に従事【CP-L-5-3】

(d) 健康関連企業などで情報エンジニアとして生体計測機器の開発・設計業務に従事【CP-L-5-4】

(e) 一般企業でヘルスケア、電気電子工学、機械工学、情報工学分野の技術職に従事【CP-L-5-5】

(f) 教員免許(工業、数学)を取得して、教育職に従事【CP-L-5-6】

○理学療法学科

理学療法学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・国際化、多様化する社会のニーズ、高度化、専門化する医療技術に対応可能な「人間力」【CP-Y-1-1】

・理学療法士の社会的役割と医療倫理を理解し、実践できる「責任能力」【CP-Y-1-2】

・対象者の声を傾聴し、理解・共感しあえる「コミュニケーション力」【CP-Y-1-3】

・理学療法士として必要な基礎および臨床医学の「知識・技術力」【CP-Y-1-4】

・理学療法分野に関わる高度専門職業人として必要な「プレゼンテーション能力」【CP-Y-1-5】

(2) 学修内容

・初年次教育

(a) 導入として、人間の身体と健康についての関心を喚起し、学び続ける能力と基本的な学習態度を身に付けます。教員引率のもとでの見学

実習によって、社会から求められる理学療法士の役割、業務を理解し、キャリア支援科目で修得した考え方を確認し、職業的なモチベーションを高めます。【CP-Y-2-1】

(b) 生理学、解剖学、運動学などの基礎医学科目で基礎的な医学知識を学習し、専門科目の基礎を固めます【CP-Y-2-2】

(c) 科学的な素養と幅広い視点を身に付けるとともに、協調性のある高度な専門職業人としてのコミュニケーション力およびプレゼンテーション力を身に付けます【CP-Y-2-3】

・教養教育

(a) 総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識を教育

し、人間・社会・自然の理解を深めます【CP-Y-2-4】

(b) 異なる文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた深い教養教育を行います。これらの教育により、幅広く人間に対する理解を深め、対人援助職として多様な価値観に対応できる能力を養います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指し、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。また、専門科目での用語の理解が円滑に進むよう医学英語を学びます。【CP-Y-2-5】

・専門教育

(a) 基礎的領域では、生理学・解剖学などの基礎医学、人体の運動の基礎を学ぶ運動学など人体の構造、機能、運動の基本となる医学的知識を学びます。さらに、バイオメカニクスや福祉環境に関する基本的な工学知識を学びます。これらの科目は、その後の学習のための知識の根幹となる科目です。【CP-Y-2-6】

(b) 応用的領域では、理学療法の対象となる疾病や外傷について医学的知識を学びます。さらに、社会的ニーズの高い予防に関する知識、将来リーダーとして活躍するために必要な医療関係法規や管理学を学びます。これらの科目は実践的な理学療法を学習するため必要となる科目です。【CP-Y-2-7】

(c) 実践的領域では、運動療法、物理療法、義肢装具学、評価学など理学療法の各領域の知識、技術を学ぶとともに、疾患ごとの理学療法の実際を、演習を交えて学びます。さらに、臨床現場でのチームアプローチやスポーツ障害、地域医療の実際を学びます。これらの科目は、将来、多様な社会ニーズに対応でき、第一線で活躍できる理学療法士になるため必要な科目です。【CP-Y-2-8】

(d) 総合的領域では、卒業研究と臨床実習を行います。卒業研究では、主に問題解決能力を養うため研究に取り組み、その成果をプレゼンテーションします。臨床実習では実際の臨床現場で理学療法の実戦を経験し、学んできた知識や技術の統合を行い、理解を深めます。これらの科目は、これまで習得してきた知識や技術の集大成となる重要な科目です。【CP-Y-2-9】

・理学療法士国家試験

(a) 厚生労働省の指定科目を開講し、模擬試験や e-learning など、資格取得に必要な知識をまとめます。特に、国家試験合格のため集中的に学び合う科目を設置しています【CP-Y-

2-10】

・キャリア教育

(a) スキルアップセミナーやアカデミックライティングなどでは、生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成し、文章作成技術やプレゼンテーション技術を養います【CP-Y-2-11】

(b) 医療接客マナーでは、医療職として要求されるマナーや態度、心構えなどを養います【CP-Y-2-12】

(c) キャリアデザイン系の科目では、リーダーシップ、コミュニケーション力を育み、理学療法士として要求される基本的資質を身に付けるよう支援します【CP-Y-2-13】

(3) 教育方法

・本学の学習支援ツールである OECU MyPortal を利用して4年間の学習体系を確認しながら学習することができます【CP-Y-3-1】

・国家試験対策で、e-learning により、効率的な学習を行います【CP-Y-3-2】

・オフィスアワーの時間を設定し、個別の学習相談にあたります【CP-Y-3-3】

・低学年次からゼミ配属し、きめ細やかな指導を行います【CP-Y-3-4】

(4) 学修成果の評価

・GPA 評価により、各期に修学指導を行います【CP-Y-4-1】

・各期ごとに、学修効果測定グラフを OECU MyPortal に提示します【CP-Y-4-2】

・理学療法士としての基礎知識を確認する基礎領域の実力テストを実施します【CP-Y-4-3】

・理学療法士国家試験の模擬試験を実施し、総合的な実力の把握を行います【CP-Y-4-4】

(5) 進路

(a) 主として医療機関で理学療法士として医学的リハビリテーションに従事します【CP-Y-5-1】

(b) 医療機器メーカーなどの一般企業に就職し、理学療法に関する知識を活用します【CP-Y-5-2】

(c) 大学院に進学し、さらに高度な理学療法を探究します【CP-Y-5-3】

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科はディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。健康スポーツ科学科では、医学・情報科学・健康科学・スポーツ指導について修得できます。理学療法学科や医療科学科とも連携し、他学科の専門科目の単位互換も認めています。リハビリテーション技術やエンジニアリング技術について広い学問領域に亘る専門的な知識を修得したい学生の要望にも十分に答えることが可能であり、他の大学にはない特色豊かなカリキュラムになっています。

1 年次では主として語学や数学、生理学、解剖学といった基礎科目を修得します。2 年次より各進路に応じた専門科目課程を修得し、さらに専門性の高い技術を修得し、知識を応用できる力をつけるために 3・4 年次では実習科目や演習科目も修得します。また、3年次より各研究室に配属されて個別指導を受け、卒業研究をまとめるところまで学修します。

(1) 獲得すべき力

・何事に於いても真摯に同僚、友人、上司と向きあうことの出来る「人間力」【CP-S-1-1】

・健康スポーツ科学分野に関する「技術力」【CP-S-1-2】

・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-S-1-3】

・健康スポーツ科学分野全体にわたる基礎的な事項の概要が説明でき、健康指導ができる「知識・理解力」【CP-S-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学での専門分野の学修に必要な基礎力の養成につとめるよう、基礎科目が編成されています。

「人文・社会・自然群」の中に、「大学の学びリテラシー」、「視野を広げる」といったコースを配置し、社会学、心理学、文学、情報、健康などについて様々な分野の科目を学びます。【CP-S-2-1】

・教養教育

よりよい暮らしや社会を築くためにすべての人々に必要不可欠な基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を学びます。また、異なる地域・文化圏の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」に「社会とつながる」、「世界を知る」、「日本を知る」といったコースを配置し、また「外国語群」を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、4技能(聞く・話す・読む・書く)全般の教育を目指します。【CP-S-2-2】

・専門教育

(a) 健康科学分野

健康を維持するために必要な栄養素や運動が体へ与える効果、及び運動プログラムの作成方法等について学ぶため、健康維持・増進に欠かせない専門的な講義と合わせて健康運動指導法について学びます。「運動生理学・実習」では、運動時の生体反応を実際に測定する体験を通して技術を修得し、「運動生理学」の講義で学んだ知識を深めます。また、コナミスポーツクラブ等の施設で健康運動の指導を実践し、身に付けることができます。「健康運動指導士」、「健康運動実践指導者」等の資格を目指す学生のために「健康運動指導実技」や「健康運動指導特別演習」などの科目を開講しサポートしています。【CP-S-2-3】

(b) スポーツ科学分野

スポーツを科学的に分析するための手法について学び、指導者として必要な能力を身に付けるために、1・2年次では実技科目を主体に様々なスポーツ競技に触れ、各競技の特性についてよく理解し、スポーツの歴史や文化的な意義についても学びます。また、医学・心理学・社会学などといった広い視点で運動の方法論や技術論について学びます。「体力測定と評価」で体力テストを実施するための方法論を学び、「運動と心の健康増進」では運動と心との関わりについてより深く学ぶことができます。「バイオメカニクス」では、スポーツにおける身体動作のメカニズムを解明したり、人間の動きをコンピュータ上で解析するために力学的シミュレーションを駆使するなど、スポーツを科学的に分析する手法を学ぶことができます。【CP-S-2-4】

(c) 情報技術分野

情報技術を駆使して、心拍計や歩数計のような健康を維持・増進するために役立つ機器を活用する技術を学びます。専門科目としてコンピュータ工学や医療情報学分野の科目により情報技術と人との関わりについて学びます。また、現代社会では必須となったインターネットで情報発信するために必要な技術についても学修します。「スポーツ ICT 演習」では、健康スポーツ科学分野の研究に必要な情報処理について、少人数のグループで実習し、実践的な能力を身に付けます。【CP-S-2-5】

・キャリア教育

段階的に、働くということ、各自の適性、専門分野の生かし方等について学べるようにしています。健康維持増進に関する仕事、業界で活躍する社会人やキャリア教育専門の外部講師による特別講義だけでなく、インターンシップの体験も踏まえ、様々な情報や知識を得られる機会を提供します。3・4年次では所属研究室の指導教員から、卒業研究の時期と同時に進行する就職活動において進路に関する相談支援や就職指導を受け、実際に就職試験や面接に望むにあたっての悩みなども解決しながら、就職活動を進められるように支援しています。【CP-S-2-6】

(3) 教育方法

学生自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学修する支援ツール OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。少人数のグループ担任制により、学修状況や学校生活状況に関する相談や、個別指導を行います。3・4年次では卒業研究指導教員による研究、就職指導を行います。【CP-S-3-1】

(4) 学修成果の評価

大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて修学指導を行います。また、GPA は学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。各学期末に各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学習効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。

【CP-S-4-1】

(5) 進路

健康スポーツ科学科の卒業生は、スポーツ指導に関する仕事のみならず以下の幅広い進路を選択し、活躍しています。

- (a) 大学院進学(健康・スポーツ科学の研究者、高度教育機関の教員、健康・スポーツ機器開発)【CP-S-5-1】
- (b) フィットネスクラブ、健康増進施設のトレーナー(健康運動指導士、健康運動実践指導者)【CP-S-5-2】
- (c) 健康・スポーツ関連機器の技術者(スポーツ用品、健康増進機器の開発・設計・管理を行う)【CP-S-5-3】
- (d) スポーツ教育者(高等学校、中学校の保健体育教員、ジュニアスポーツ指導員)【CP-S-5-4】
- (e) 福祉、介護、医療法人職員(リハビリや介護に関連する運動指導やサポート)【CP-S-5-5】
- (f) 各種企業に於ける総合職や営業職(高いコミュニケーション力や健康、医療関連の知識を期待され、広く様々な企業の営業職の求人数多。医療機器メーカーへも就職)【CP-S-5-6】

◎総合情報学部

(総合情報学部の統一的教育方針)

総合情報学部では、芸術表現力や科学技術力を基盤とした実学教育を根幹としています。それを実現するために、次のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- (1) すべての学生を対象とした「総合科目」を設置しています。これらを通して、知識と教養を養うとともに学習方法の習得を目指します。
- (2)「専門科目」では、各々の学問的方法を体系的に学び、問題解決方法、および問題の本質を見抜く洞察力や判断力の習得を目指します。
- (3) 少人数の参加型授業である「演習」や「実験」を多数設置し、すべての学生がもれなく履修できるようにしています。
- (4)「卒業研究」または「卒業制作」において、これまでに身に付けた知識、技能・技術、思考力、および表現力等を活用し、それらを総合的にまとめるべく丁寧な個別指導をしています

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-W-1-1】
- ・デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野に関する専門的な「技術力」【CP-W-1-2】
- ・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-W-1-3】
- ・デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる知識・理解力【CP-W-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため大学入門などで大学の学修に必要な能力を育成します。【CP-W-2-1】

・教養科目

総合科目では、人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群等の講義・実習を履修し広範で多様な文化・教養に触れ、専門性につながる基本的な学習姿勢を身につけることにより、職業人としての素地を養います。【CP-W-2-2】

・専門教育

専門科目を、キャリアユニット、アート&デザインユニット、エンジニアリングユニット、デベロップメントユニット、マネジメントユニット、グラフィックスユニット、の6つのユニット(科目群)に分類しています。キャリアユニット(必修)を含む3つを選択履修し、個々の専門領域の知識と技能の

基盤を形成します。【CP-W-2-3】

アート&デザインユニットでは、デッサンの基礎から芸術的表現、人間の認知理論や多様なデザイン表現の技術を学びます。【CP-W-2-4】

エンジニアリングユニットでは、ハードウェアやネットワークを含めたシステム構築技術を学びます。【CP-W-2-5】

デベロップメントユニットでは、ソフトウェア開発等の情報処理技術を中心に、ゲーム開発の技術を学びます。【CP-W-2-6】

マネジメントユニットでは、エンタテインメントをプロデュースする手法やマーケティング、プランニング、マネージメントの関連知識を学びます。【CP-W-2-7】

グラフィックスユニットでは、2D/3D CG 等、デジタルコンテンツの制作技法を学び、技術の向上を図ります。【CP-W-2-8】

学修の集大成となる4年次の卒業研究・卒業制作では、その成果を一般の方も参加できる場で展示・発表することで、成果に対する評価を得るとともに、来場者に対するホスピタリティを実践的に学びます。【CP-W-2-9】

・プロジェクトスキル教育

キャリアユニットを必修としています。キャリアユニットではプロジェクトを推進し、情報化社会でキャリアを形成するための基礎を学びます。企画・設計・実現にいたる開発プロジェクトにチームで取り組む実習や企業での実践的方法を体験するインターンシップ、学外での展示会への出展等も、さらなる知識と経験を得る機会として、キャリアユニットに科目を配しています。【CP-W-2-10】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール(OECU MyPortal)に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任もしくは指導教員がコメントを返します。【CP-W-3-1】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-W-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。【CP-W-4-2】

・各学期末に、学修成果を具体的に把握するため、グループ担任もしくは指導教員により面談を実施します【CP-W-4-3】

(5) 進路

デジタルゲーム学科の卒業生は、デジタルゲームならびにエンタテインメントコンテンツの企画・制作、情報技術に基づくさまざまなコンテンツ開発、その他情報メディア関連分野、大学院への進学等の進路を選択しています【CP-W-5-1】

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-B-1-1】

・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-B-1-2】

・デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野の全体にわたる広く基礎的な事項の概要を説明できる知識・理解力。

【CP-B-1-3】

・デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野に関する「技術力」【CP-B-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため大学入門などで大学の学修に必要な能力を育成します。【CP-B-2-1】

・教養科目

総合科目では、人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群等の講義・実習を履修し広範で多様な文化・教養に触れ、専門性につながる基本的な学習姿勢を身につけることにより、職業人としての素地を養います。【CP-B-2-2】

・専門教育

専門科目を、キャリアユニット、アート&デザインユニット、アニメーションユニット、ゲームユニット、ライブユニット、カルチャーユニットの 6 つのユニット(科目群)に分類しています。キャリアユニット(必修)を含む 3 つを選択履修し、個々の専門領域の知識と技能の基盤を形成します。

【CP-B-2-3】

アート&デザインユニットでは、デッサンの基礎から芸術的表現、人間の認知理論や多様なデザイン表現の技術を学びます。【CP-B-2-4】

アニメーションユニットでは、アニメーション表現の領域について 2D/3D CG 等、デジタル技術を用いた制作と編集の技術を学びます。

【CP-B-2-5】

ゲームユニットでは、デジタルゲーム制作の基本である企画やプログラミングについて基礎から学びます。【CP-B-2-6】

ライブユニットでは、実写映像や e-Sports 実況など、放送やイベントの分野を対象とした知識や制作技術を学びます。【CP-B-2-7】

カルチャーユニットでは、芸術、文芸、教育、国際化といった観点からゲームに関わる文化的側面について学びます。【CP-B-2-8】

学修の集大成となる 4 年次の卒業研究・卒業制作では、その成果を一般の方も参加できる場で展示・発表することで、成果に対する評価を得るとともに、来場者に対するホスピタリティを実践的に学びます。【CP-B-2-9】

・プロジェクトスキル教育

キャリアユニットを必修としています。キャリアユニットではプロジェクトを推進し、情報化社会でキャリアを形成するための基礎を学びます。

企画・設計・実現にいたる開発プロジェクトにチームで取り組む実習や企業での実践的方法を体験するインターンシップ、学外での展示会への出展等も、さらなる知識と経験を得る機会として、キャリアユニットに科目を配しています。【CP-B-2-10】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール(OECU MyPortal)に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任もしくは指導教員がコメントを返します。【CP-B-3-1】

(4) 学修成果の評価

・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-B-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。【CP-B-4-2】

・各学期末に、学修成果を具体的に把握するため、グループ担任もしくは指導教員により面談を実施します。【CP-B-4-3】

(5) 進路

・ゲーム&メディア学科の卒業生は、デジタルゲームならびにエンタテインメントコンテンツの企画・制作、放送や出版分野でのさまざまなコンテンツ開発、その他情報メディア関連分野、大学院への進学等の進路を選択することを想定しています。【CP-B-5-1】

○情報学科

情報学科は、情報処理技術者として必要な情報学に関する知識の習得、それを実践するプログラミング能力の育成、社会的責務の自覚などバランスのとれた人材の育成を目的とし、教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・情報学の知識：情報科学、ソフトウェア科学、コンピュータ工学、情報システム、情報メディア分野【CP-T-1-1】

- ・実践力：情報リテラシー及びプログラミング能力【CP-T-1-2】
 - ・コミュニケーション能力：プレゼンテーション、ディスカッション【CP-T-1-3】
 - ・日本語文章の作成能力及び外国語の基礎能力【CP-T-1-4】
 - ・学習スキル及びエンジニアリングデザイン能力【CP-T-1-5】
 - ・人文社会科学および健康に関する知識【CP-T-1-6】
 - ・数学および自然科学分野の知識【CP-T-1-7】
- (2) 学修内容
- ・初年次教育
専門科目を学ぶために必要な基礎的な数学やコンピュータリテラシー及び自分で学習を行うためのスキルを身に付けます。【CP-T-2-1】
 - ・教養教育
総合科目では人格形成、社会人としての素養を身に付けることを目的として、社会、文化及び健康等について学び幅広い教養を身に付けます。また、英語等の外国語も学びます。【CP-T-2-2】
 - ・専門科目
情報科学、ソフトウェア科学分野、コンピュータ工学分野、情報システム分野、情報メディア分野があります。「情報科学」分野ではアルゴリズム、情報理論等のコンピュータサイエンス、「ソフトウェア科学」分野ではソフトウェアの開発手法やプログラミング技法、「コンピュータ工学」分野ではコンピュータの仕組みや組込みシステム、「情報システム」分野では情報ネットワークおよび情報システムの設計・運営、「情報メディア」分野ではコンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティについて学びます。【CP-T-2-3】
 - ・プロジェクトスキル教育
ライティング、プレゼンテーション、ディスカッション技法について学ぶと共に、実際の企業の方の講演を聞くなど情報スペシャリスト、社会人としての心構えを身に付けます。【CP-T-2-4】
 - ・エンジニアリングデザイン能力
必ずしも解が一つでない課題に対して、種々の学問・技術を統合して、実現可能な解を見つけ出していく能力を身に付けます。【CP-T-2-5】
- (3) 教育方法
- ・1年に「基礎解析演習」、「微分積分学演習」、「ベクトルと行列」等、2年次に「確率・統計演習」で数学を学びます。【CP-T-3-1】
 - ・プログラミング教育として、「C++プログラミング実習1~4」でオブジェクト指向言語であるC++言語を主に学び、その他「プログラミング総合演習1~3」等、様々なプログラミング技術を学びます。【CP-T-3-2】
 - ・主に2年次以上では情報科学、ソフトウェア科学分野、コンピュータ工学分野、情報システム分野、情報メディア分野の専門科目を学び、情報学の知識を獲得します。【CP-T-3-3】
 - ・キャリア教育として「テクニカルプレゼンテーション(1年次)」、「テクニカルコミュニケーション(3年次)」、「キャリアプランニング1、2」などの科目を学びます。【CP-T-3-4】
 - ・3年次のうちに「卒業研究(必修)」を行い高度な実践力、問題解決能力、エンジニアリングデザイン能力を身に付けます。【CP-T-3-5】
 - ・4年次にも「特別研究」という卒業研究に準ずる位置づけの科目を配置し、指導教員のもと小人数グループ教育を行って指導を密にして、実践力の向上を図っています。【CP-T-3-6】
 - ・学生が自ら長期的学習状況を振り返り主体的に学生する支援ツールを OECU MyPortal に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また記載内容に対してグループ担当がコメントを返します。【CP-T-3-7】
- (4) 学修成果の評価
- ・大阪電気通信大学学部規則に定める GPA を用いて、成績評価を行っています。その評価にもとづき学習指導を行います。また GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用いられます。【CP-T-4-1】
 - ・各学期末に、学修効果測定グラフを OECU MyPortal 上で提示します。【CP-T-4-2】
- (5) 進路

情報学科の卒業生はソフトウェア、情報システム、情報通信及び情報関連のサービス分野に就職又は大学院へ進学をしています。【CP-T-5-1】

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy_2022.pdf）

（概要）

（全学の統一的教育方針）

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのために、幅広い科学技術における実学をベースに人間力を培い、夢を形にできるスペシャリストの養成をめざした全人的教育を進めています。本学は、そのような人材の教育にあたり、次のようなことに意欲と情熱をもった学生を求めます。

- (1) 得意な分野を活かし、社会への貢献をめざす人
- (2) 自らの目標に向かって努力を惜しまない人
- (3) 大阪電気通信大学を母校として愛し、仲間とともに励まし学び合える人

◎工学部

（工学部の入学者受入れ方針）

工学部は、産業の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、その基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上および学習目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) モノづくりに興味をもち、積極的に取り組む姿勢と意欲をもっている人
 - (2) 持続可能な社会の形成に貢献したいと思っている人
 - (3) 幅広い分野の技術者として活躍したいと考えている人
 - (4) 科学技術を身に付けた教師(数学、理科、工業、情報、技術など)になりたいと考えている人
- 上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○電気電子工学科

電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

（知識・技能）

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-E-1-1】
- (2) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている【AP-E-1-2】
- (3) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」に関する基礎知識を身に付けている【AP-E-1-3】

（思考力・判断力・表現力）

- (4) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-E-2-1】

（主体性）

- (5) 電気電子工学の専門知識の修得や技能獲得について、主体的に考え、積極的に取り組むことができる【AP-E-3-1】
- (6) エネルギー、電気電子機器、情報システム分野の勉強に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる【AP-E-3-2】
- (7) 電気電子工学分野のモノづくり、管理・保全、研究開発、教育などで社会に貢献するという高い志を持って努力することができる【AP-E-3-3】

○電子機械工学科

電子機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」または「工業科系科目」を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探究する能力を身に付けている【AP-H-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-H-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報」または「情報系科目」を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている【AP-H-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-H-2-1】

(主体性)

(5) 機械、電気・電子、情報やメカトロニクスについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる【AP-H-3-1】

(6) 学科が設置している座学、実習、演習科目および卒業研究においてグループで協力し、十分に安全にかつ自主的に参加して学習を重ねることができる。【AP-H-3-2】

○機械工学科

機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-J-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。【AP-J-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報(社会と情報 または 情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている。【AP-J-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。【AP-J-2-1】

(主体性)

(5) モノづくりについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる。【AP-J-3-1】

(6) 機械工学の専門知識を積極的に身につけたいと考えている。【AP-J-3-2】

○基礎理工学科

基礎理工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、日本語を話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的な知識・技能を身に付けている【AP-N-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-N-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象を理解し、科学的に探究する能力を身に付けている【AP-N-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって自ら探求し、新たな価値を創造することができる【AP-N-2-1】

(主体性)

(5) 自然科学に興味があり、問題の発見やその解決について、主体的に考え、積極的に取り組むことができる【AP-N-3-1】

○環境科学科

環境科学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 環境科学の基礎となる「理科」、「数学」を学び、自然の事物・現象について論理的に探究し、表現できる能力を身に付けている【AP-U-1-1】

(思考力・判断力・表現力)

(2) 基本的なコミュニケーションに必要な、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことを身に付けている【AP-U-2-1】

(主体性)

(3) 身のまわりの環境について、科学的な観点から主体的に考え、積極的に取り組むことができる【AP-U-3-1】

○建築学科

建築学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」または「工業化系科目」を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている【AP-C-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-C-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報」または「情報系科目」を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている【AP-C-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-C-2-1】

(主体性)

(5) 建築の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる【AP-C-3-1】

(6) 建物やまちづくりについて、人々と積極的に交流しながら、取り組むことができる【AP-C-3-2】

(7) 建築士を目指して、真剣に取り組むことができる【AP-C-3-3】

◎情報通信工学部

(情報通信工学部の入学者受入れ方針)

情報通信工学部は、現代社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

(1) 情報・通信分野に強い関心を持ち、社会で活躍したいと考えている人

(2) 論理的思考と自由な発想で、新たな価値を創造したいと考えている人

(3) 科学技術を身に付けた教師(数学、工業、情報など)になりたいと考えている人

上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○情報工学科

情報工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていること【AP-P-1-1】
 - (2) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていること【AP-P-1-2】
 - (3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報(社会と情報または情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けていること【AP-P-1-3】
 - (4) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けていること【AP-P-1-4】
 - (5) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けていること【AP-P-1-5】
- (思考力・判断力・表現力)
- (6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-P-2-1】
- (主体性)
- (7) 社会貢献や自己キャリア設計について、主体的に考え、積極的に取り組むことができる【AP-P-3-1】

○通信工学科

通信工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-F-1-1】
 - (2) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている【AP-F-1-2】
 - (3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報(社会と情報 または 情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている【AP-F-1-3】
 - (4) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている【AP-F-1-4】
 - (5) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている【AP-F-1-5】
- (思考力・判断力・表現力)
- (6) これまでの知識を基に、未知の現象について、深い考察と的確な判断に基づく確認作業により、その現象を解明し、説明することができる【AP-F-2-1】
 - (7) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-F-2-2】
- (主体性)
- (8) 新しい目標を自ら設定することや未解決の問題について、主体的に考え、その実現と解決に積極的に取り組むことができる【AP-F-3-1】

◎医療健康科学部

(医療健康科学部の入学者受入れ方針)

医療健康科学部は、人々の生活の質の向上を目指し、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、広く社会で主体的に活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 自ら考え行動しようとする学習意欲の高い人
- (2) 医療あるいは福祉の分野で人の役に立ちたいと考えている人
- (3) スポーツや科学技術を通して健康社会をつくる意欲をもった人

上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○医療科学科

医療科学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている人【AP-L-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている人【AP-L-1-2】

(3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている人【AP-L-1-3】

(4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている人【AP-L-1-4】

(5) 医療技術および情報技術、生活科学に関する科学的な考え方を育成するために、「理科」または「工業系科目」の基礎知識を身につけている人【AP-L-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

(6) 知的好奇心があり、自由な発想によって新しいものを創造する意思がある人【AP-L-2-1】

(7) 人々の健康、福利、権利を守る意識があり、プライバシーおよび個人情報を正しく取り扱いができる人【AP-L-2-2】

(主体性)

(8) 医療・健康および生活科学に関する学習や研究に、主体的かつ積極的に取り組むことができる人【AP-L-3-1】

(9) 人の尊厳と権利を尊重し、人のために行動できる意思と人の気持ちを理解する努力を続けることができる人【AP-L-3-2】

○理学療法学科

理学療法学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人【AP-Y-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人【AP-Y-1-2】

(3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている人【AP-Y-1-3】

(4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている人【AP-Y-1-4】

(5) 情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている人【AP-Y-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

(6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる人【AP-Y-2-1】

(7) 空間認知力、身体認知力、および対人認知力を基礎として、科学的に思考、判断が出来る人【AP-Y-2-2】

(主体性)

(8) 人を助けることや自身のやりがいについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる人【AP-Y-3-1】

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人【AP-S-1-1】
- (2) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人【AP-S-1-2】
- (3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている人【AP-S-1-3】
- (4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている人【AP-S-1-4】
- (5) 情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている人【AP-S-1-5】
- (6) 心身の健康維持・増進や体力の向上に関する科学的あるいは実用的な知識やその活用方法を育成するために、保健体育について基礎知識を身に付けている人【AP-S-1-6】

(思考力・判断力・表現力)

- (7) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することや、技術を実行することができる人【AP-S-2-1】

(主体性)

- (8) 人々の健康の維持・増進や体力づくりについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる人【AP-S-3-1】

◎総合情報学部

(総合情報学部の入学者受入れ方針)

総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識および応用に関する実学教育ならびにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学習成果の向上および学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 感性豊かで、モノづくりやデザインに対する強い主体的動機をもっている人
 - (2) 人を楽しませるための奉仕精神をもって努力する姿勢のある人
 - (3) 知識の獲得や実践について、主体的に学ぶ姿勢のある人
 - (4) 情報の基礎知識やコンテンツ制作技術を身に付けた教師(数学、情報など)になりたいと考えている人
 - (5) コミュニケーション能力を高めることで、協調性をもって活動しようとしている人
- 上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修教科のうち「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-W-1-1】
- (2) 高等学校までの履修教科のうち「国語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている【AP-W-1-2】
- (3) 高等学校までの履修教科のうち「英語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている【AP-W-1-3】
- (4) 高等学校までの履修教科のうち「情報(社会と情報 または 情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている【AP-W-1-4】

(5) 高等学校までの履修教科のうち「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている【AP-W-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

(6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-W-2-1】

(主体性)

(7) 工学・科学・芸術を俯瞰する広い視野で学習や研究に取り組める人【AP-W-3-1】

(8) 論理的思考能力あるいは視覚的表現力や芸術的創造力がある人【AP-W-3-2】

(9) デジタル技術を応用したゲームやメディアアートを自らつくり、それが広く供されることで社会生活を豊かにしたい人【AP-W-3-3】

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修教科のうち「国語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている【AP-B-1-1】

(2) 高等学校までの履修教科のうち「英語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている【AP-B-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報(社会と情報 または 情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている【AP-B-1-3】

(4) 高等学校までの履修教科のうち「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている【AP-B-1-4】

(5) 高等学校までの履修教科のうち「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている【AP-B-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

(6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる【AP-B-2-1】

(主体性)

(7) 芸術・科学・工学を俯瞰する広い視野で学習や研究に取り組める人【AP-B-3-1】

(8) 視覚的表現力あるいは芸術的創造力や論理的思考能力がある人【AP-B-3-2】

(9) デジタル技術を応用したゲームやメディアアートを理解し、それを様々なメディア・手法を用いて伝え拡げることで社会生活を豊かにしたい人【AP-B-3-3】

○情報学科

情報学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校で数学に関する科目を学んだと同等以上かつ本学科において情報学を学ぶために必要な数学の基礎能力を有する【AP-T-1-1】

(2) 高等学校で情報に関する科目を学んだと同等以上の情報リテラシーまたは情報科学の基礎知識を有する【AP-T-1-2】

(3) 高等学校で国語に関する科目を学んだと同等以上の文章読解及び文章作成のための基礎知識を有する【AP-T-1-3】

(4) 高等学校で英語に関する科目を学んだと同等以上の英語会話、英語読解、英語作文のための基礎知識を有する【AP-T-1-4】

(思考力・判断力・表現力)

(5) 情報処理技術者として論理的に物事を考え説明できる【AP-T-2-1】

(主体性)

(6) 情報学を積極的に学ぶ意思を持ち主体的に物事に取り組むことができる【AP-T-3-1】

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
工学部	－	33人	49人	4人	0人	0人	49人
情報通信工学部	－	10人	24人	1人	0人	0人	24人
医療健康科学部	－	14人	27人	6人	0人	0人	27人
総合情報学部	－	21人	34人	3人	0人	0人	34人
教養部(一般教育)	－	10人	27人	5人	0人	0人	27人
その他	－	0人	7人	4人	0人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計	
0人			197人			197人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法: https://research.osakac.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	480人	552人	115.0%	1920人	2161人	112.6%	-人	0人
情報通信 工学部	240人	270人	112.5%	960人	1119人	116.6%	-人	0人
医療健康 科学部	190人	213人	112.1%	580人	609人	105.0%	10人	2人
医療福祉 工学部	0人	0人	0%	200人	222人	111.0%	-人	1人
総合情報学部	340人	396人	116.5%	1370人	1529人	111.6%	5人	3人
合計	1250人	1431人	114.5%	5030人	5640人	112.1%	15人	6人
(備考) 医療健康科学部(2020年4月 医療福祉工学部より名称変更。)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	444人 (100%)	44人 (9.9%)	370人 (83.3%)	30人 (6.8%)

情報通信工学部	222人 (100%)	23人 (10.4%)	186人 (83.8%)	13人 (5.9%)
医療福祉工学部	157人 (100%)	13人 (8.3 %)	136人 (86.6%)	8人 (5.1%)
総合情報学部	315人 (100%)	15人 (%)	268人 (%)	32人 (%)
金融経済学部	4人 (100%)	0人 (0%)	3人 (75%)	1人 (25%)
合計	1142人 (100%)	95人 (8.3%)	963人 (84.3%)	84人 (7.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>○授業計画書の作成過程 各教員の作成後、各学科の主任、教務委員及び学部長等による内容の点検を経ている。</p> <p>○授業計画書の作成・公表時期 1月から2月頃にシラバスが作成され、点検を経て、履修登録開始の約1週間前(3月下旬)までに本学HP等で公表している。</p> <p>【全学部共通】</p>
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスにおいて「評価方法と評価観点」の項目を置き、「定期試験またはレポート試験」、「小テスト、小論文」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「レポート、宿題」、「授業での姿勢(ノート、質疑など)」、「作品、パフォーマンス(実技、実演)」といった評価方法を示し、それぞれについて、「知識・理解力」、「応用力」、「コミュニケーション力」、「態度・志向性」、「創造力」といった評価観点及び、評価割合を示している。</p> <p>このように、評価方法と評価観点ごとに評価の割合をあらかじめ示し、学修成果をはかるため試験等により厳格かつ適正な単位授与を実施している。</p> <p>【全学部共通】</p>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電気電子工学科	128 単位	有・無	48 単位
	電子機械工学科	128 単位	有・無	48 単位
	機械工学科	128 単位	有・無	48 単位
	基礎理工学科	128 単位	有・無	48 単位
	環境科学科	128 単位	有・無	48 単位
	建築学科	128 単位	有・無	48 単位
情報通信工学部	情報工学科	128 単位	有・無	48 単位
	通信工学科	128 単位	有・無	48 単位
医療健康科学部	医療科学科	128 単位	有・無	48 単位
	理学療法学科	128 単位	有・無	48 単位
	健康スポーツ科学科	128 単位	有・無	48 単位

総合情報学部	デジタルゲーム学科	128 単位	有・無	48 単位
	ゲーム&メディア学科	128 単位	有・無	48 単位
	情報学科	128 単位	有・無	48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： ・『学修必携』に記載し、学生全員に配付【工学部・情報通信工学部】 ・『履修登録の手引・学修必携』に記載し、学生全員に配付【医療健康科学部・総合情報学部】		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：成績配付時(9月, 2月)に学生生活自己評価アンケートの結果を HP にて公表【全学部共通】		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本学 HP にて公表 寝屋川キャンパス： https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/neyagawa/ 四條畷キャンパス： https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/shijonawate/</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
工学部, 情報通信 工学部,	全学科 2008年度から 2018年度 までの入学者	985,000円	—円	347,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費
	全学科 2019年度から の入学者	1,282,000円	200,000円	—円	
総合情報 学部	医療福祉 工学科 2008年度から 2018年度 までの入学者	985,000円	—円	397,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実験実習料
	医療福祉 工学科 2019年度から の入学者	1,282,000円	200,000円	50,000円	その他費用 実験実習料
	理学療法学科 2008年度から 2018年度 までの入学者	985,000円	—円	647,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実験実習料
	理学療法学科 2019年度から の入学者	1,182,000円	200,000円	300,000円	その他費用 実験実習料
	健康スポーツ 科学科 2008年度から 2018年度 までの入学者	985,000円	—円	347,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実習料
	健康スポーツ 科学科 2019年度から の入学者	1,082,000円	200,000円	100,000円	その他費用 実習料

備考：医療福祉工学部は、2020年4月に医療健康科学部に名称変更

医療福祉工学科は、2020年4月に医療科学科に名称変更

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)【全学部共通】</p> <p>◆OECU MyPortal 学生ポータルサイトです。 機能一覧 ・時間割 ・お知らせ情報 ・休講情報 ・アンケート ・ポートフォリオ ・学生情報リンク ・修学支援情報</p> <p>◆OECU メール 学生専用のメールアドレスです。</p> <p>◆総合学生支援センター これまで個々の学生のメンタル面や学修・学生生活について相談を行ってこられた学生相談室は、2016年度より障害学生への支援を含めた、総合学生支援センターへ拡充されました。</p>
--

総合学生支援センターには、下記の二つの支援室が設置されています。

●学生支援室

学生支援室では、全学生を対象として、学生生活上のさまざまな問題の相談にカウンセラーが対応します。本学の学生であれば、誰でも気軽に利用できます。

大学生活で出会うさまざまな問題や悩みについて、共に考え、学生自身が主体的に解決していくための援助を行うところが学生支援室です。

こんなときは気軽に相談してください。

- 自分の生き方や将来について不安になった
- 自分で物事が決められずあれこれ迷ってしまう
- 友人関係がうまくいかない
- 下宿や家庭での生活がどうもうまくいかない
- 性に悩んでいる
- 周囲の目が気になる
- 気分が落ち込んだり、イライラしたりすることが多くなった
- 授業について行けない
- 悪徳商法にひっかかった

●自立支援室

2016年度より施行された「障害者差別解消法」により、大学においては、障害のある学生に対して、障害による学修や大学生活上の困難について、適切な配慮を行う努力が義務づけられました。本学においては、自立支援室を設け、障害により学修や大学生活において特別な困難をかかえている障害学生について、専門の自立支援コーディネーターが相談・支援を行います。

一人で抱え込まず、まずは気軽に相談してください。

※ここでの障害のある学生とは、本学の学生であって、身体障害(視覚障害、聴覚障害、肢体障害)、発達障がい及びその他の心身の機能における障がいを指します。

3.本学では、前項のような障がいのある学生が何ら差別を受けることなく自立的な学修を進め、充実した学生生活を享受できるように、特別な支援を必要とするそれぞれの学生に対して、可能な限り必要な合理的配慮を行います。

4.障がいのある学生に対する支援の相談窓口として、総合学生支援センターの中に自立支援室を設置し、コーディネーターが室長を務めています。

5.本学に入学を希望する者で、入学後に特別の支援を必要とすることが予想される場合については、可能な合理的配慮について事前に協議することによって、必要な支援を円滑に提供します。

6.支援を必要とする学生一人ひとりに対する個別の合理的配慮に基づく支援については、当該学生とその保護者並びにコーディネーター、カウンセラー、学科の教員、その他関連の教職員によって適切な内容を協議した上で実施します。

7.本学では、障がいのある学生に対する差別の防止並びに自立支援や合理的配慮に関し、全ての教職員及び学生に対して理解を深める努力を継続します。

◆ラーニング・コモンズ

「学生個人に合わせた学修支援を実施」

「ラーニング・コモンズ」は、学生の皆さんの学修支援を教職員やOB教職員、学生などが相談役となり、運営しています。

<実施プログラム>

- 数学／物理質問相談室 ◦数学オフィスアワー
- 英語学習サポート ◦国際交流サロン

※「数学／物理質問相談室」は、数学と物理の授業で分からないことを学生個人の進捗状況に合わせて指導します。

◆英語教育研究センター

全学の英語授業、および授業以外での英語学習支援を行っています。

本学英語教育研究センターでは英語学習支援室を設け、英語を苦手とする学生の皆さんをはじめ、更なる英語力向上を目指す学生の皆さんへの学習支援、および TOEIC 等の資格取得などの支援を行っています。

支援室開室時には英語教育研究センターの教員が常駐していますので、気軽に英語に関する質問、学習方法などを相談してください。教員と相談しながら自分に合う学習方法を見つけていくこともできます。

◆自由工房

自由工房は、大阪電気通信大学がバックアップする「ものづくり」の課外活動の場です。学年や学科に関わらず誰でも参加できます。二つのキャンパスにそれぞれ活動拠点があり、各種ロボット、電気自動車、マイコン教育などのプロジェクトが活動しています。各プロジェクトでは、様々な設計や加工ができる設備が整っており、技術スタッフからいつでもアドバイスを受けることができます。

参加希望者はいずれかの活動プロジェクトに所属して活動することになりますが、既存の活動以外のことにもチャレンジすることも可能です。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【全学部共通】

◆就職支援

年々早期化する就職活動に対応するため、早くから就職支援に取り組んでいます。低年次より、卒業後の進路を見据えたキャリアガイダンスを行い、さらに就職活動の対策として実践的な就職支援講座を実施します。

●就職ガイダンス

就職部スタッフによる就職ガイダンスを実施します。各時期のトピックスや学内行事などを案内し、就職に対する意識を高めるようにします。就職活動のノウハウ提供ではなく、納得のいく進路、就職決定ができるよう、意識喚起を行います。

●就職支援講座

専門講師を招いて実践的な就職支援講座を実施します。実際に体験できるような内容で、すべての講座が原則、無料で受講ができます。学生の要望や就職環境をふまえ、主に自己分析、自己PR、エントリーシート対策、筆記試験対策、マナー・面接対策、グループディスカッション講座など基本的な講座を実施しています。具体的には、筆記試験対策では適性検査や一般常識などの問題を解説する講義形式と模擬テストを本番に近い形で実施し、エントリーシート対策では、目的や書き方から、実際にエントリーシートを記入し、添削指導、解説まで行います。

●適性検査

入学時から実施している適性検査の結果をもとに、自らの進路を考え、科目の履修計画や資格取得など、各自の目標設定やキャリア意識の向上を図ります。

2年次以降は、学生生活を振り返り、各自の目標を見直し、自己PR力の養成や業界研究・職種研究に活かすために就職適性検査を行い、大学生活での成長度合いや自らの特性を客観的に見つけることができます。

●業界研究セミナー

企業の人事担当者または現場担当者を招き、講演を行います。産業界の動向など、現場の実情を知り、各業界が求める人材について理解を深め、今後目指していく方向を定めることを目標とします。

●学内企業説明会、病院説明会

本学の学生への採用意欲の高い企業や各学科の特徴に見合った企業の人事担当者を招き、両キャンパスでブース形式またはオンライン形式による説明会を開催します。3年次3月から4年次9月頃まで、年間約40回開催します。

また、病院就職希望者(臨床工学技士、理学療法士)に対する合同病院説明会を4年次8月、10月に四條畷キャンパスで開催します。

●卒業生に対する就職支援

既卒者向けの求人紹介や個別相談、面接指導など各自の希望や状況に応じた支援を行います。ハローワークやジョブカフェの活用方法についても紹介します。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)【全学部共通】

◆医務室

医務室では、病気や怪我の応急処置・医療機関の案内・健康相談などを行っています。

◆総合学生支援センター

総合学生支援センターは、学生のみなさんが大学での学修や学生生活で、悩んだり、困ったりした時に相談にのり、主体的に問題を解決していくための支援を行います。総合学生支援センターには、下記の二つの支援室が設置されています。

●学生支援室

学生支援室では、大学生活で出会うさまざまな問題や悩みについて、共に考え、学生自身が主体的に解決していくための支援を行うところで、心理カウンセラーが対応します。こんなときは気軽に相談してください。

- ・自分の生き方や将来について不安になった
- ・友人関係がうまくいかない
- ・下宿や家庭での生活がどうもうまくいかない
- ・性に悩んでいる
- ・周囲の目が気になる
- ・授業についていけない
- ・悪徳商法にひっかかった

●自立支援室

自立支援室では、障がいにより学修や学生生活において特別な困難をかかえている学生について、専門の自立支援専門員が相談・支援を行います。一人で抱え込まず、まずは気軽に相談してください。

※ ここでの障がいのある学生とは、本学の学生であって、身体障がい(視覚・聴覚・肢体・内部障がい等)、精神障がい、発達障がいおよびその他の心身の機能の障がいのある学生をさします。相談・支援については、医師の診断書や身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳などの手帳取得の有無などは問いません。

●障がい学生の自立的学修支援に対するガイドライン(抜粋)

このガイドラインは、障がいのある学生が学修上で差別を受けることなく、自立して就学できる学びの場を提供していくために、全学の指針として定めています。

1. 本ガイドラインで対象とする障がいのある学生とは、本学に在籍する学部学生、大学院生、留学生および科目履修生等であって、本学において学修を進める上で、障がいにより特別な困難がある学生を指します。
2. 本ガイドラインで対象とする障がいとは、身体障がい(視覚・聴覚・肢体・内部障がい等)、精神障がい、発達障がいおよびその他の心身の機能における障がいを指します。
3. 本学では、前項のような障がいのある学生が何ら差別を受けることなく自立的な学修を進め、充実した学生生活を享受できるように、特別な支援を必要とするそれぞれの学生に対して、可能な限り必要な合理的配慮を行います。
4. 障がいのある学生に対する支援の相談窓口として、総合学生支援センターの中に自立支援室を設置しています。
5. 本学に入学を希望する者で、入学後に特別の支援を必要とすることが予想される場合について

は、可能な合理的配慮について事前に協議することによって、必要な支援を円滑に提供します。

6. 支援を必要とする学生一人ひとりに対する個別の合理的配慮に基づく支援については、当該学生(必要な場合はその保護者含む)、総合学生支援センターの担当教職員、学科の教員、その他関連の教職員によって適切な内容を協議した上で当該学生と教職員の合意に基づいて実施します。

7. 本学では、障がいのある学生に対する差別の防止並びに自立支援や合理的配慮に関し、全ての教職員および学生に対して理解を深める努力を継続します。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/ir/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F127310108045
学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		742人	733人	781人
内 訳	第Ⅰ区分	428人	458人	
	第Ⅱ区分	195人	184人	
	第Ⅲ区分	119人	91人	
家計急変による支援対象者（年間）				13人
合計（年間）				794人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	21人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	17人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	24人		
「警告」の区分に連続して該当	27人		
計	67人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	-	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	53人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	89人		
計	109人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。